

2014年度 事業報告

I 法人の概要

【1】 建学の精神

世界音楽並ニ音楽ニ関連セル諸般ノ芸術ハ之ノ学校ニヨッテ統一サレ
新音楽新歌劇ノ発生地タランコトヲ祈願スルモノナリ

【2】 学校法人の沿革

1915年（大正4年）	創立者永井幸次により、大阪市南区塩町（現、中央区南船場）に大阪音楽学校を開校
1926年（大正15年）	大阪市東区味原町（現、天王寺区味原本町）に移転
1948年（昭和23年）	大阪音楽高等学校開校
1951年（昭和26年）	大阪音楽短期大学開学
1954年（昭和29年）	豊能郡庄内町野田（現、豊中市庄内幸町）の現校地に移転
1957年（昭和32年）	附属児童音楽学園開設
1958年（昭和33年）	大阪音楽大学開学 大阪音楽高等学校を附属音楽高等学校に改称
1959年（昭和34年）	大阪音楽短期大学を大阪音楽大学短期大学部に改称
1966年（昭和41年）	音楽文化研究所開設（のちに音楽研究所に改組） 附属児童音楽学園を附属音楽学園に改称
1967年（昭和42年）	大学と短期大学部に各音楽専攻科設置 附属音楽幼稚園開設
1968年（昭和43年）	大学院音楽研究科開設 附属楽器博物館開設
1980年（昭和55年）	K号館竣工（音楽文化研究所、附属楽器博物館を移転）
1981年（昭和56年）	附属音楽高等学校閉校
1989年（平成元年）	ザ・カレッジ・オペラハウス開館
2000年（平成12年）	P号館（ミレニアムホール）竣工
2002年（平成14年）	音楽博物館開設（附属楽器博物館、音楽研究所などを統合して改組）
2003年（平成15年）	附属音楽院を開設（附属音楽学園を改組）
2004年（平成16年）	短期大学部を改組、新たにジャズ・ポピュラー専攻開設
2009年（平成21年）	短期大学部を改組、音楽科の下に11コースを置く

2011年（平成23年）	短大専攻科を音楽専攻の1専攻に改組
2012年（平成24年）	大学音楽学部作曲学科・声楽学科・器楽学科の3学科を廃止し、音楽学科1学科を新設、ジャズ・クラシックギター・電子オルガン専攻を開設、短期大学部音楽科にクラシックギター・ダンスパフォーマンスコースを開設
2015年（平成27年）	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部が公益財団法人日本高等教育評価機構による大学・短期大学機関別認証評価の結果、「大学評価基準・短期大学評価基準に適合している」と認定を受ける

【3】 役員・教職員の概要

理 事

理事定数 10～15名 理事の現員数 10名

理事長 中村 孝義
 副理事長 本田 耕一
 常任理事 十川 輝明
 常任理事 中上 善生
 常任理事 武藤 好男

理事 大川 真一郎（2014年6月29日退任）
 理事 岡野 幸義
 理事 北野 徹
 理事 田中 勉（2014年4月1日就任）
 理事 永井 譲
 理事 本山 秀毅

監 事

監事定数 2名 監事の現員数 2名

小林 慶成（2014年6月30日就任）
 永井 俊一
 山下 欣男（2014年6月29日退任）

評議員

評議員定数 21～31名 評議員の現員数 22名

大学長及び幼稚園長

大阪音楽大学学長	武藤 好男
大阪音楽大学短期大学部学長	武藤 好男
大阪音楽大学附属音楽幼稚園長	小畑 有子

【4】 設置する学校・学部・学科等 及び 入学定員、学生数の状況（在籍数は2014年5月1日現在）

●大阪音楽大学 音楽学部

学 科	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員	在籍数
音楽学科 (2012年度以降)	210名	30名	900名	547名
作曲学科 声乐学科 器楽学科				202名
計	210名	30名	900名	749名

●大阪音楽大学 音楽専攻科

専 攻	入学定員	在籍数
作曲専攻	2名	0名
声乐専攻	6名	5名
器楽専攻	12名	14名
計	20名	19名

●大阪音楽大学 大学院

研究科	専攻	1年次		2年次		計	
		入学定員	在籍数	入学定員	在籍数	収容定員	在籍数
音楽研究科	作曲専攻	2名	1名	2名	2名	4名	3名
	声乐専攻	4名	6名	4名	5名	8名	11名
	器楽専攻	7名	12名	7名	5名	14名	17名
計		13名	19名	13名	12名	26名	31名

●大阪音楽大学短期大学部

学 科	入学定員	収容定員	在籍数
音 楽 科	150名	300名	254名
計	150名	300名	254名

●大阪音楽大学短期大学部 専攻科

専攻	入学定員	在籍数
音楽専攻	15名	17名

●大阪音楽大学付属音楽幼稚園

学年	定員	在園児数
3歳児3学級	105名	98名
4歳児3学級	105名	90名
5歳児3学級	105名	92名
計	315名	280名

II 事業の概要

- ・学長のリーダーシップのもと、2016年度より大学に新たな専攻として「ミュージッククリエイション専攻」(Cr)と「ミュージックコミュニケーション専攻」(Co)を開設することを決定した。また、指導陣には渡邊崇氏(Cr)、徳永暁人氏(Cr)、足立知謙氏(Cr)、久保田テツ氏(Co)を2016年度に採用することを決定し、4氏をアドバイザーとして当該専攻のカリキュラムを作成した。
- ・入寮生を対象とする1泊2日の「フレッシュマンキャンプ」を今年度からは新入生全員参加型の1日イベント「新入生歓迎祭」としてリニューアルをし、専攻・コースを越えた学生間交流の活発化を図った。
- ・学生の教育環境の充実を目的に練習室予約システムを構築した。従来、大学の窓口において空き状況の確認や予約が必要であったが、システム導入を機に、スマートフォンからの予約が可能となり、授業時間外における学修時間の確保にも有効となった。
- ・(財)日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を大学と短大で同時に受審し、ともに評価基準を満たしている(「適合」)との評価を2015年3月26日付で受けた。
- ・図書館システムの再構築を行った。より汎用性の高いシステムを採用することで、操作性と図書館業務の効率性が向上した。また、システム導入を機に付属図書館の運営全てを外部業者に委託し、学生サービスの向上を図った。
- ・2011年度から開始した創立100周年記念プロジェクトとして今年度は4件の記念公演を実施した。各公演とも盛況のうちに終了し、次年度、創立100周年へ向け気運も高まった。
- ・ザ・カレッジ・オペラハウスで開催した第51回オペラ公演20世紀オペラ・シリーズ「鬼娘恋首引」「カーリユー・リヴァー」が文化庁芸術祭芸術祭大賞を受賞した。
- ・2013年度に策定した「キャンパス再編マスタープラン」に基づき、野田校地・新校舎建設の基本設計まで完成させた。また、地域社会に開かれた大学として、新校舎内に移設する音楽博物館の在り方を豊中市とも協議し、連携強化に取り組んだ。
- ・創立100周年記念新校舎建設資金に資する募金活動を開始した。募金目標額1億円を設定し、期間は2014年9月16日から2015年9月30日までとする。
- ・大阪音楽大学100周年記念誌の作成を決定し、編集室を学内に設置した。記念誌は「WEB年表」形式とし、

年代ごとに順次ホームページ上に公開を開始した。また、関西洋楽史と対比させ、関西における音楽文化の発展に、本学が如何に寄与してきたかを解説している。

- ・大学・短大教授会の承認により栗國淳氏、井原広樹氏、岩田達宗氏、三橋貴風氏が客員教授として、中村恵理氏が客員准教授として、田村響氏が客員講師として次年度より就任することが決定した。

以下 内は事業名を示す。

A 教育・研究事業

【1】大学院・大学・大学専攻科・短大・短大専攻科

<大学院>

2014年度は作曲研究室3名、オペラ研究室8名、歌曲研究室3名、ピアノ研究室11名、管弦打研究室6名の計31名が在籍（内休学2名）、各研究室による修士演奏、修士作品、口述試験の結果、作曲2名、オペラ2名、歌曲2名、ピアノ3名、管弦打1名の計10名が修了した。全大学院生必修の「芸術文化の諸相」の授業を、前期は昨年度に引き続き先花智恵子氏（通訳案内士）、後期は安東伸元氏（能楽師、客員教授）が担当し、音楽以外の芸術文化についての知見を養った。修了生支援の一環として行っている「研究生制度」は、更新3名、新規8名が各自のテーマで研究を行った。ティーチングアシスタントとして、4名が大学・短大の授業サポートを行った。大学院定期演奏会を11月4日にザ・カレッジ・オペラハウスで開催し、前半は作品発表・室内楽・独奏、後半はヴェルディ「椿姫」抜粋を演奏し、大学院の演奏水準の高さを示す演奏会となった。2015年度入試は、前期・後期合わせて33名の志願者があり、19名（作曲1、声楽10、ピアノ6、管弦打2）が合格した。

<大学・大学専攻科>

大学は749名が在籍し、166名が卒業した。卒業生の中から、最優秀賞3名、優秀賞8名を表彰した。

大学専攻科は19名が在籍し、18名が修了した。音楽実践演習としてLICはびきの、洲本市文化体育館、西宮フレンテホールで3回のオータムコンサートを実施した。

<短大・短大専攻科>

音楽科には254名が在籍し、108名（うち4名が前期）が卒業した。卒業生の中から優秀賞6名を表彰した。また専攻科には17名が在籍し、15名が修了した。高校生に専門性を伴う授業内容を継続的に提供する「オープンカレッジ」は、従来のポピュラーコースに加えてダンスパフォーマンスコースも開講し多くの参加者を得た。

専攻科はカリキュラムの特色を生かした「コンサート・プロデュース」による授業を行った。

教育改革推進

●要旨

学長のリーダーシップにより、2016年度に開設される新専攻のカリキュラム編成や教員配置等を速やかに行った。また、2014年度に実施された認証評価における意見を今後の改革に生かすため、学則変更等を行った。

●成果及び達成度

新専攻のカリキュラムに関して、各科目の教育内容や教員人事が各会議の審議を経て確定した。これに加え、大学・短大の人材養成や教育研究上の目的を学則において明文化した。

●今後の展望

今後の短大のあり方について各教員の意見の取りまとめを行っており、これに基づき教学的な観点から短大改

革の方向性を明らかにする予定である。

開講科目数の適正化の実現

●要旨

学生数の減少に合わせて単純に開講科目数を減らすのではなく、開講科目を時間割上でブロックごとに整理し、履修希望科目の重複を避けることにより開講科目数を適正化する。

●成果及び達成度

2～3年の内に時間割のブロック化を完成させる予定であったが、初年度である2014年度より教職科目等において曜限が固定化されたため、学生にとって履修希望科目の重複が少ない時間割が完成した。

●今後の展望

今後さらにブロック化を推進することも考えられるが、特定の曜限に講義系科目が集中する等、教室利用上の問題が想定されるため、当面は現状程度を維持したい。

サウンドスクール

●要旨

サウンドスクール事業は豊中市との包括連携協定に基づき、豊中市教育委員会と連携して「音楽あふれる学校園づくり」をテーマに事業を展開している。豊中市立の幼稚園・小学校・中学校で授業支援、出張演奏、クラブ活動支援といった活動を年間53件（幼稚園7件、小学校30件、中学校16件）実施し、延べ795名の学生（卒業生・教員を含む）を教育現場へ派遣した。

●成果及び達成度

過年度中学校では重点支援校を設定したが、2014年度は豊中こども音楽フェスティバルに出演予定の小学校についても重点支援校として集中指導を実施し、大きな成果を上げることができた。また、今年度は授業内での合唱指導の依頼も多数あり、声楽専攻の学生も授業運営の経験を多数重ねることができた。

●公的助成・民間助成

実施経費については、連携先の豊中市の負担。

●今後の展望

サウンドスクール事業を開始して9年が経過した。2014年度までは邦楽を含めてクラシック音楽を主体に事業を進めてきたが、2015年度からはクラシック以外の分野も含めて事業展開を進めていきたい。

教員採用筆記試験対策講座

●要旨

学生及び卒業生に対し、教員採用試験対策講座（筆記試験対策）を実施した。当該講座は2010年度から本学の教職担当教員と連携して開講してきたが、2014年度から一新して一般教養対策、教職教養対策、論文対策、時事対策を含めWeb講座として実施した。昨年度までは対面方式の講座であったが、受講希望学生が授業等の理由で受講が困難な者もあり、より効果的な方法を模索していた。Web講座は、自身の学習に向けた意志の継続が重要で、どれだけ教員採用試験への思いが強いか問われるが、時間を気にせず、自分の学習ペースとスケジュールで学習可能で、試験的な意味も含めて導入した。個別対策での契約ではなく、一括契約を結んでおり、受講学生は自身が受験を希望する自治体で課される課題を中心に学習が可能となっている。

●成果及び達成度

教員採用試験対策Web講座（ガイダンス1回、教職教養対策全24回、一般教養対策全26回、論文対策全11

回、時事対策全5回、総まとめ・教職教養全5回、人物対策講座全2回)を実施した。Web講座受講者数は18名(内訳:大学・17名、短大1名)であった。

●今後の展望

Web講座の効果について検証を行う。今年度受講した18名について、教員採用試験受験者の状況について確認すると共に、自主学習の意識を継続して高める効果的な方策について検討を行う。

一般教養対策、論文対策、時事対策については、教員採用に限らず公務員採用にも活用が可能なこともあり、消防、警察等の音楽隊希望者も取り込む仕組みを検討する。

【2】国際交流

海外の提携校との実質的な交流が行われた。

2014年9月～2014年12月の期間に大学4年次生1名を王立ウェールズ音楽演劇大学(イギリス)に送り出した。近年、提携校留学に興味を持つ学生が増加傾向にあり、次年度にはデポール大学(アメリカ)に大学生2名、王立ウェールズ音楽演劇大学(イギリス)に大学生1名の留学が決定しており、留学準備を進めている。なお、デポール大学へ留学する学生2名については、留学先大学の授業期間の関係から3月下旬に渡米している。

また、12月にはデポール大学(アメリカ)から教員1名(ピアノ)を招聘し、在学生に対する公開マスタークラスレッスン及び特別演奏会(会場ミレニウムホール)を開催し、教員及び学生との交流を深めた。

海外の中高校生に来校もあり、今年度も数件受け入れた。6月にシンガポールのAnglo-Chinese Junior Collegeより合唱学生・卒業生が来校し、オペラハウス、音楽博物館の見学及び本学合唱授業生との合同レッスンの後、合唱ワークショップを実施した。また、同月には、同Junior Collegeより吹奏楽学生も来校し、音楽博物館見学及び本学吹奏楽学生との合同レッスン、吹奏楽ワークショップを実施した。さらに、同月にPaya Lamer Methodist Girls' Schoolが来校し、音楽博物館見学とギターアンサンブルワークショップを実施した。

その他に、4月にはカナダ在住の卒業生からの紹介で、Westem UniversityからColleen Richardsons教授が来校、学長と対談の後、音楽博物館と吹奏楽授業を見学。10月にはオーストラリアのQueensland Conservatorium Griffith Universityから教授陣が親善訪問、学長との対談の後に吹奏楽授業を見学及びレッスンを実施した。

提携校を中心とした国際交流に関わる業務

●要旨

- ・王立ウェールズ音楽演劇大学(イギリス)への学生送り出し
- ・海外交換留学への学生の関心を高めるための基盤づくり、海外提携校留学助成金を受けた在学海外留学制度による交換留学のPR(交換留学報告会の実施、「教養基礎セミナー」「大音コミュニケーション入門」におけるPRの実施)
- ・デポール大学(アメリカ)からの教員招聘。マスタークラスレッスン、特別演奏会の実施
- ・海外からの訪問などへの応対

Anglo-Chinese Junior College<合唱学生>×吹奏楽学生>(シンガポール)

Paya Lamer Methodist Girls' School<ギター>(シンガポール)

Colleen Richardsons 教授 (Westem University・カナダ)

Peter Luff 教授他2名 (Queensland Conservatorium Griffith University・オーストラリア)

●成果及び達成度

- ・在学留学制度による提携校への留学を実現できた。
- ・王立ウェールズ音楽演劇大学(イギリス)へ学生1名を送り出した。

- ・デポール大学（アメリカ）から教員 1 名（ピアノ）を招聘し、マスタークラスレッスン及び特別演奏会を通じて学生、教員との交流ができた。
- ・シンガポールから中・高校生の訪問を受け、合同授業（レッスン）をうけることで、合唱、吹奏楽の学生との交流ができた。
- ・国際交流推進委員会の開催を原則として月 1 回行うことができた。

●今後の展望

- ・海外提携校留学助成制度について、奨学制度委員会との連携を深め、提携校での学修のさらなる充実を図るため語学等における適業者審査について協議を行う予定。
- ・海外提携校の情報に加え、提携校毎の国におけるビザや語学上の条件等について情報収集を行い、学生にフィードバックする。
- ・海外の提携校及びその他の教育機関において本学をアピールする。

●継続事業の中で特筆すべきもの、その成果など

- ・提携校とのさらなる交換留学、教員派遣・招聘の実現
- ・大学（理事長・副理事長、学長名等）としての海外関連の文書作成、海外からの訪問者の対応
- ・国際交流・留学関連の情報収集
- ・留学ハンドブックを作成し、希望者に事前準備や実用事項の注意を喚起

【3】学生生活支援・福利厚生

学生の自主企画演奏会の内、19 件（前年度 27 件）に対して音楽文化振興財団が支援を行った。また、奨学事業財団の奨励金給付対象となった学生の自主活動は 25 件（前年度 30 件）であった。

日本学生支援機構奨学金貸与者は 1 種 105 名、2 種 358 名の計 463 名（前年度 484 名）、本学奨学事業財団奨学金 31 名（前年度 49 名）であった。

給付奨学金制度は大学 27 名（申請者 56 名）、短大 6 名（申請者 13 名）、大学専攻科 2 名（申請者 7 名）、短大専攻科 1 名（申請者 5 名）を選出し、所定の奨学金を給付した。また、「海外提携校留学助成金」の申請者は 4 名で、その内の 1 名が助成金の給付を受けて海外の提携校に留学した。「国内・海外音楽講座受講助成金」の申請者はいなかったが、この制度を活用して大学院生を対象に「京都フランス音楽アカデミー」の受講希望者を募集し、2 名を選考した。

保健室の利用は 1 か月平均 175 件（前年度 130 件）、健康診断の受診率は 92.1%（前年度 91.2%）。保健室での心の問題に関する相談は 127 名（前年度 81 名）であった。契約カウンセラーによる「心の相談室」の活用は 71 件（前年度 51 件。学外での電話相談、六甲カウンセリングセンターでの相談を除く）であった。さらに今年度は 4 月より学生相談室を新たな場所に移して開設し、インテーカーが相談に対応する等、約 700 件の利用があった。

学生寮入寮者は 69 名（内、新入寮者 32 名）。新入寮生歓迎パーティーが 4 月に、懇親会が 1 月にそれぞれ開催され寮生間の交流を深めた。また、7 月 22 日及び 12 月 20 日に寮運営委員会を開催し、寮生活の現状を把握し、諸問題の改善を検討した。この他、4 月に交通安全講習会、6 月に防犯訓練、9 月に消防訓練をそれぞれ実施した。

2014 年度より一泊二日のフレッシュマンキャンプをリニューアルし、4 月 5 日に新入生全員を対象とする「新入生歓迎祭」を K 号館で開催した。

新入生歓迎祭

●要旨

寮生や希望者を対象とする 1 泊 2 日のフレッシュマンキャンプを 2014 年度よりリニューアルし、新入生全員

を対象とする1日のイベントとしてK号館で実施した。参加者（参加率）は大学が172名（95%）、短大が102名（91%）であった。内容は初年次教育として学習への動機付けを目的としたものであり、午前中は音楽博物館の見学・全体のオリエンテーションに続き、班別のディスカッションを行い、さらにスタンプラリーの要領で各会場における専攻・コースごとの演奏を鑑賞することとした。班ごとの昼食の後、演奏の鑑賞を再開し、最後に班別ディスカッションで当日の成果をまとめた。

●成果及び達成度

本学で開設されている専攻実技の全てが異なる場所で同時に演奏を行う機会はこれまでになく、新入生にとって短時間で様々な演奏を聴くことは音楽的な知識を深める上で有意義だったと思われる。また、ディスカッションの時間は新しい環境における友人づくりを支援した。

●今後の展望

授業回数を確保する目的から、入学式後、4月の授業開始までの日程に余裕がないため、実施時期が課題である。春の連休前の1日をこの行事に充てる等の案を今後検討したい。

学習支援室の設置

●要旨

前年度の学生生活委員会における議論を踏まえ、4月の時点では後期から学習支援室を設置する予定であったが、その後のFD総括委員会においてオフィスアワー制度を拡大させて音楽理論・ソルフェージュ・外国語等の学習支援に活用することを確認した。ただし、これは暫定的な対応であり、将来的には学習支援とオフィスアワーを分離することを前提としている。

●成果及び達成度

学習支援に関する議論を重ねることで学内の意識が高まり、授業時間外の個別指導や定期的なリメディアル教育の実施につながった。

●今後の展望

今年度の学習支援の実施を通して、学習支援を必要とする在学生の相や数の把握が出来つつある。この形の支援を継続しながら、今後の入学者数の変化などを見据えつつ、時間割にリメディアル教育を取り込む工夫なども行うことで、音楽大学としての学習支援室設置を含めた学習支援の在り方を考えてゆく。

練習室予約システム構築

●要旨

従来、練習室予約は当日の先着順であり、希望の練習室を利用したいがために早朝から窓口に並ぶ学生が多く、懸案事項となっていた。練習室予約方法の改善策として、スマートフォンを使った予約システムを構築し導入する。また、スマートフォンを所有していない学生に対しても学内パソコンから予約できるようにする。

●成果及び達成度

当初計画では6月導入予定であったが、利用学生に予約システムについての理解を深めさせ、円滑に予約方法を切り替えるために、まずは練習室利用が殺到する授業期間のみを対象に9月から導入することとした。システムを導入した結果、次の点で学生の利便性が向上し、当初目的はおおむね達成できた。

1. 前日から練習室予約が出来るようになり、学生は計画が立てやすくなった。
2. 何処からでも、リアルタイムに練習室の空き状況が確認できるようになった。
3. 空き時間帯が一目で分かるようになったことで、より多くの学生が効率よく練習室を利用できるようになった。

●公的助成・民間助成

一部、大阪音楽大学後援会からの援助金。

●今後の展望

操作性向上のシステム改修や、予約システム運用期間の延長を検討している。

【4】教員の研究活動

本学研究費による研究活動は、通常研究6件、特別研究（芸術分野）8件、研究成果出版1件（論集）であった。『大阪音楽大学研究紀要 第53号』（論文3編、研究ノート2編、報告1編を収録）は3月末にホームページ上で公開した。

研究委員会は11回開催され、助成申請のあった研究課題に対する審査、『大阪音楽大学研究紀要』への投稿論文等の査読及び掲載の可否の決定、及び図書館の購入資料及び除却資料の選定を行った。

科学研究費の助成については、主担研究課題が1件、分担研究課題が3件（内1件は過年度からの継続）であった。

教育研究業績のデータベース化

●要旨

従来、主に紙媒体で管理していた教員の研究業績について、情報公開や作業の効率化を図るため電子データベースに移行する。

●成果及び達成度

2013年度にシステムを導入し、2014年度に専任教員の研究業績を過去5年分（2008年～2013年）入力した。

●今後の展望

専任教員の研究業績をすべて入力し、ホームページに公開することが当面の目標である。その後、非常勤教員の研究業績についても、随時データベース化していく。

【5】自己点検・評価体制

今年度は日本高等教育評価機構による機関別認証評価を大学、短大が同時受審するという重要な一年であった。担当理事、学長のもと前年度より着手していた自己点検評価書の提出に続いて、評価チームから受理した事前質問への回答、10月に実施された実地調査、機構より第1次の本学に対する評価、異議申し立てなどのやり取りを経て、2014年3月に正式に「使命・目的等」「学修と教授」「経営・管理と財務」「自己点検・評価」「独自基準」のすべての基準において「適合する」と認められた。

学生に対する授業評価アンケートの実施は、項目や実施方法に若干の修正を加えながら前回通り前後期の1回実施し、それに基づき初めて「授業改善計画書」を作成した。またその計画書は、学内で公開している。

認証評価の同時受審

●要旨

今年度は認証評価の受審年度にあたり、自己点検評価書の提出、実地調査準備、開催、その後の機構とのやり取りを経て評価を得ることが目標となっている。

●成果及び達成度

執筆者それぞれが準備した評価書を、各事務部門から収集したデータとともに提出し、評価員による評価を受け、その結果すべての基準において適合の評価を得た。

●今後の展望

次回を受審は7年後になり新たなクールに入ることになる。評価の過程で自己点検のあり方を中心に受けたアドバイスを、今後どのように本学の活動に生かしていけるかが課題である。

点検評価「授業アンケート」

●要旨

講義・演習科目については Semester 毎に、実技科目については年度ごと（後期に実施）に学生による授業評価アンケートを実施し、その成果を各教員に返還する。

●成果及び達成度

それぞれのアンケートの回収率は高く、大学評価の一環として機能している。授業改善に向けての PDCA サイクル構築の意味を含めて、昨年度後期実施のアンケート結果に対して専任教員には授業改善計画を求め、授業改善計画書を冊子化した。この作成は今後も続けるが、現在専任教員のみに行っているアンケートを非常勤教員に展開するなど課題は残されている。

●今後の展望

授業改善計画書の作成によって、その結果を各教員にフィードバックすることにより授業に対する意識を変革することはもちろん、FD 総括委員会との連携により、より構造的な改善につなげることを目標とする。

【6】 付属図書館

付属図書館については、従来から外部委託していたカウンター業務に加えて、資料の整理・受入等、他の業務についても同一業者に一括して委託した。また、OPAC (Online Public Access Catalog) システムを更新し、利用者の資料検索の迅速性と確実性の向上に加え、蔵書点検をはじめとする図書館業務全般の効率化を図った。

付属図書館は、2015 年度に着工する新校舎への移転を計画しており、移転を契機として、収蔵資料の専門性と施設の利便性を高めるべく、資料構成の精査と蔵書の整理に着手した。大栗文庫については、新校舎への移転が困難であるため、第三者への資料の譲渡を視野に入れた契約更改について著作権者と協議を行っている。

また、付属図書館の利用に関する現行細則を研究委員会において見直し、体系的に整理して「大阪音楽大学付属図書館利用規程」を新たに制定した。同規程は所定の手続きを経て 2015 年 4 月 1 日から施行する。

図書館システムの再構築

●要旨

2014 年 7 月 29 日に、従来の OPAC システムに代わる新システム (富士通株式会社の iLiswave) を導入した。

●成果及び達成度

新システムは多くの公立図書館や大学図書館で導入されており、収蔵資料の検索に関する操作性の向上とともに、資料の受入・管理、業務統計・帳票の作成、各種データの一括管理、システムの web アプリケーション化による端末管理の容易性等により、図書館業務の効率性が大幅に改善した。システムの切り替えにあたっては、その時期を夏季休業の直前に設定するとともに、利用者への周知を徹底し、併せて新検索システムの説明会を実施したことにより、新システムの導入は大きな混乱なく円滑に行われた。

●今後の展望

新旧システム間の所蔵書誌データの移行は遺漏なく行われたが、旧システムにおいて書誌情報の電子データ化が間に合わなかった資料が相当数ある。これらの資料は OPAC において検索されず有効に活用できない状況となっているため、今後数年を目途に書誌情報入力を完遂させる。

図書館業務の全面委託化

●要旨

2014年4月1日から附属図書館業務を外部業者（丸善株式会社）に全面的に委託した。

●成果及び達成度

既に2012年度から附属図書館のカウンター業務を外部委託にしており、その状況把握を踏まえて、今年度から同一業者に受け入れや配架等の業務を委託した。これに伴い、図書館業務の管理は学務事務部門長の統括の下に学務事務部門の職員2名が行い、購入資料及び除却資料の選定は研究委員会が行うこととした。従来から附属図書館への本学職員の配置と司書資格等の専門性を有する職員の養成は、学内人事の課題であったが、当該委託業者は図書館運営に関する専門性と図書館機能の向上に関する提案ができる多くの人材を有し、全面的委託を通じて附属図書館業務の透明性と効率化、利用者対応の迅速化に加え、開館日数も増やすことができた。

●今後の展望

近年の大学図書館については、機関リポジトリの構築、ラーニング・コモンズの運用、資料の電子化への対応、カリキュラムを踏まえた資料の整備、情報リテラシー教育等、従来の知識と見識では対応できない新たな業務内容の展開が求められつつある。こうした状況の変化に対応するためには、本学内の各事務部門との連携を図り、求められる図書館機能を効果的に発揮できる体制を整備していく必要がある。図書館業務の全面委託化は、このための環境整備の第一歩であり、今後は学生及び教員相互の芸術・学問的交流を促進する場としての環境を着実に整えていく。

【7】音楽博物館

2013年度より週2日に減じた音楽博物館の一般開館日（月・土曜日）は定着してきた。殊に土曜日は若年家族連れの増加がみられる。一般開館日外は学内関係者の利用を促進しており、館内授業、本学学生利用者へのレファレンスや試奏対応、授業課題への対応に重点をおけるようになっており、本学学生による試奏利用が微増傾向にある。また、新規の館内授業利用も微増傾向にある。

月2回実施している個人来館者対象に展示解説を行う「定例ガイドツアー」はリピーターも増え、地域社会への教育普及活動の主軸となっている。また、夏休み中に5日間行う「夏休み開館」は小学生の自由研究課題、校外学習目的の親子、家族連れの来館者対象に展示解説や「手作り楽器」のレクチャーを行っており、音楽博物館の特長を活かしたイベントとして好評を得ている。このほか、「グループ見学」における学芸員の展示解説なども好評を得ている。

館内催事は、ガムラン・ワークショップ、古典ピアノ・ワークショップを継続催行した。

フランス・エラル社製グランド・ピアノ（1811年）が5月に本学卒業生より寄贈され、調整後、授業で活用し、ミュージアム・コンサートでも使用した。

2012年10月に引き続き、音楽博物館バリガムラン・サークル「スナリ・サンティ」が滋賀県立琵琶湖博物館より依頼を受け9月6日、7日に出張演奏を行った。

関西圏にある大学ミュージアムの連携「かんさい・大学ミュージアム連携」が、文化庁の助成事業として行った15館をめぐる「大学ミュージアムをめぐるバスツアー」のアンケートで、「友人・知人にすすめたい大学ミュージアム」で首位に選出された。

平成26年度「大阪府都市教育長協議会秋季研修会」の一行が来館し、特長ある教育施設として認識された。

音楽博物館の将来計画の策定

●今後の展望

音楽博物館の縮小移転計画により、館所蔵の図書資料を将来的に付属図書館に移管するため重複図書の調査を完了した。縮小移転計画により、減ずる資料の引受先について検討を開始した。

●継続事業の中で特筆すべきもの、その成果など

- ・第 77 回ミュージアム・コンサートは「サクソフーン創案者 アドルフ・サククス生誕 200 年記念コンサート」と題し、国立パリ高等音楽院教授 クロード・ドゥラング氏を迎えて 10 月 29 日に開催した。音楽博物館所蔵 A.サククス製作のオリジナル楽器 5 点を、本学教員が演奏した。ピアノは 5 月に寄贈されたエラル社製の楽器を使用した。これまで、音楽博物館展示室で土曜日の 14 時より開催してきたミュージアム・コンサートを、学内施設ミレニアムホールへ会場を移し 18 時より催行した。交通アクセスや開催時間帯の制約のため参加できなかった層や、在学生の参加が可能になった。加えて、高校生の参加もあり、若年層への教育普及活動にもつながった。
- ・音楽博物館が所蔵する、本学の学校史資料及び洋楽史資料を基に編纂する、本学「創立 100 周年誌編集」作業を音楽博物館内で開始した。
- ・音楽博物館所蔵の 1794 年～1911 年に製作された歴史的ピアノ 6 台を使用したレクチャーのプログラムを作成し、本学の授業や来賓時及び、「夏休み開館」にて披露した。音楽博物館の特長ある企画として好評を得ている。

【8】 付属音楽幼稚園

在園児は 5 月 1 日付けで 280 名（3 歳児 3 クラス 98 名、4 歳児 3 クラス 90 名、5 歳児 3 クラス 92 名 前年度比 3%増）、3 月には 89 名が卒園した。

2 歳児親子教室「りんごクラブ」前期（5 月～9 月）は 75 組、「りんごクラブ」後期（11 月～1 月）は 40 組の申し込みがあり、昨年度同様クラスを増設した。

音楽教室「クレフ」は受講者が 5 月 1 日付で 86 名、対象園児の 47%が受講した。

1 歳児親子教室「きらり」

●要旨

1 歳児の親子を対象に月 1 回の親子イベントとして実施した。親子の遊びの場を提供し、幼稚園への関心と正しい理解をもってもらうことを目的とする。

●成果及び達成度

2 歳児の親子教室の前段階として 2013 年度より実施しているが、参加者もかなり定着し、リピーターも多かった。（2013 年度のべ 230 名、2014 年度のべ 231 名）

2015 年度新入園児の 40%が 2013 年度「きらり」の参加者であった。

●公的助成・民間助成

一部、豊中市の地域に開かれた幼稚園づくり事業補助金を充当した。

●今後の展望

入園 2 年前から本園に興味をもってもらうことは 新入園児獲得にかなり大きな成果になり得るので今後、更に充実させていきたい。

大人の為のレッスン

●要旨

保護者など大人のための音楽レッスン（ピアノ・ヴァイオリン・マリンバの個人レッスン）

●成果及び達成度

2014年度より開設したが、受講者は少なかった。ただし、受講者は満足していた。

●今後の展望

更なる広報に努め、受講者の増加につなげる。

スマートフォン対応の幼稚園 Web サイト開設

●要旨

幼稚園に関する情報収集にインターネットを利用する保護者層に対し、スマートフォン対応 Web サイトを他の幼稚園に先駆けて提供する。

●成果及び達成度

未就園児のイベントもインターネットを見て申込みされる保護者が大半で、2015年度新入園児は目標の100名超えを達成した。

●今後の展望

今後も独自性を重視し、更なる園児獲得のために活用する。

B 社会連携活動事業

【1】アドミッション事業

2013年度入試より「特待生授業料減免制度」を開始した。専門実技試験の上位成績者に対し、1年次の授業料の一部（大学40万円、短大35万円）を減免する制度で、公募推薦・特別推薦・一般入試A日程が対象となる。実施3年目となる2015年度入試では、合格者のなかから大学32名（前年度27名）、短大16名（前年度15名）を本制度の適用者に選んだ。

出張授業や進学説明会で教職員が訪問した高校数は278校となった。また入試事務部門スタッフが大学広報を目的に訪問した高校・楽器店等は187カ所となり、合計465件の高校・楽器店等を訪問した（前年度482件）。受験産業等が主催する進学相談会は西日本、北陸を中心に35会場（前年度13会場）に参加した。

オープンキャンパスを5回（吹奏楽フェスティバル含む）実施し、2,098名を動員した（前年度4回1,263名）。11月24日には祝日の授業日に合わせてオープンキャンパスを実施した。3月29日は体験レッスンとともに2016年度から開設する新専攻を紹介するイベントを開催した。土曜日や祝日に、学生や卒業生が施設設備をガイドする「キャンパスツアー」は14回開催し、211組361名が参加した（前年度16回開催、109組175名）。高校教員対象入試説明会は25名（前年度21名）が参加した。

2009年度から実施している「体験レッスン」は、西日本を中心に21会場で開催し、735名が受講した（前年度20会場509名）。

高校訪問プロジェクト

●要旨

教職員による高校訪問の強化を図る。大学案内、入試要項、オープンキャンパス、体験レッスン案内等を直接高校に持参し、情報交換をすることによって高校側との関係を深める。

●成果及び達成度

入試事務部門スタッフが大学広報を目的に訪問した高校・楽器店等は延べ187件、進学相談会で訪れた高校は185件であった。2012年度より入試スタッフの担当地区制を導入、2013年度より最重要校の担当制を導入しており、訪問時には高校出身者で本学在学生の学習状況や卒業後の進路を報告することにより、高校との信頼関係を深める努力を継続している。

●今後の展望

次年度も引き続き積極的に高校訪問を行い、2016年度から開設する大学の2つの新専攻を広報するとともに、高校との関係を強化していきたい。

ポピュラーコース・オープンカレッジ

●要旨

高大連携の提携校である帝塚山学院高等学校の生徒、及びポピュラー音楽に関心のある高校生を対象に年間16回のポピュラー音楽の授業（講座）を開講した。講師はポピュラー・コースの教員3名が交替で担当した。2013年度からは帝塚山学院高等学校に対し、オープンカレッジの受講を条件とした「高大連携特別入試」を開講している。

●成果及び達成度

ホームページ、チラシ配布による広報活動の結果、年間のべ64名（帝塚山学院高等学校の生徒9名を除く）の参加者があった。参加した高校生にとっては、大学におけるポピュラー音楽教育の体験をとおり「大学での学び」について考える機会となった。各講義についても満足度の高い結果を得ることができた。参加者の中から2015年度入試（ポピュラー・コース）への志願者が9名あった（高大連携特別入試2名を含む）。また、高校2年生以下の参加者にとりも本学志願を決定づける契機となっている。

●今後の展望

2015年度も引き続き本講座を開講する。ポピュラー音楽に興味のある高校生に対してチラシ、ホームページを通して周知を図り講座申込者を増やすとともに、実際の志願に結び付けるよう働きかけたい。また、帝塚山学院高等学校以外の高校との高大連携入試の導入について検討したい。

台湾における留学生獲得推進事業

●要旨

2012年度に行った入試プロジェクトチームの提案をもとに、2013年度より台湾における留学生獲得のためのプロジェクトを開始した。具体的には、現地の情報を得るため毎年7月に台北と高雄で行われる「日本留学フェア」（独立行政法人日本学生支援機構主催）へ参加しブースを出展した。

●成果及び達成度

台湾での「日本留学フェア」へは2会場で約4,700人の来場者があり、現地における日本留学フェアへの関心・知名度の高さを感じた。本学のブースへは台北会場で30組48名（2013年度：16組32名）、高雄会場で13組24名（2013年度：10組15名）の合計43組72名（2013年度：26組47名）であり、昨年を上回る来場者を得た。今回2度目の出展ということで、昨年に引き続いての相談や今後の出願を期待できる相談もあり、本学への進学が必要が少なからずあることを確認できたことは大きな成果である。留学に際しての事前の日本語教育や保証人の問題は以前からネックとして存在しているが、授業料の内訳を直接対話で丁寧に説明することで本学への理解を深めてもらうことが出来た。

●今後の展望

法人の方針変更により当初3年計画であった「日本留学フェア」への参加は今年度で終了する。ブース出展を2年行ったことで国外からも音楽高等教育に対する高い需要があることが確認できた。今後留学生を獲得するためには、アピールする手法の工夫とともに、日本語教育や保証人の問題を検討し、留学生を柔軟に受け入れられる体制を確立することが重要である。また、2016年度に新設するミュージッククリエーション専攻、ミュージックコミュニケーション専攻は、外国人留学生にとりも日本で学ぶことに魅力がある分野であり、ホームページ

での情報発信を中心に広報する予定である。

【2】対社会事業

<キャリア関連>

大学3年次生、短大1年次生を対象に進路ガイダンスを実施。在学生在卒業後の進路について理解を深め、具体的な行動に移すための契機として取り組んだ。また早期の意識付けとして、大学1年次生、短大1年次生に対して通常授業の半コマ(45分)を使い、キャリア支援センターの紹介と活用奨励の説明を行った。また、大学2年次生に対してキャリアガイダンスを実施し、音楽関連産業(作曲家・音楽プロデューサー)へ進んだ卒業生による講演を行った。

これらに加えて、学内で卒業後の進路に関わる各種採用試験説明会を実施した。主に音楽教室(ヤマハ、カワイ、ローランド、島村楽器、三木楽器等)の講師採用説明会や公立学校教員採用試験の説明会を実施した。他にも多様な進路選択に対応するために、自衛隊音楽隊の採用説明会、警察音楽隊の採用説明会、著作権に関するセミナー等を実施した。卒業生にも協力を要請し、多様な進路を在学生在に提示することができた。

これらの他にも講座やセミナーを多数開催し、教員採用試験対策講座については、専門実技を「弾き歌い」と「リコーダー」に分けて実施、また一般教養、教職教養については2014年度からWeb講座として実施した。さらに、同試験の受験を将来的に考えている学生を対象に3月に合宿を行った。音楽教室講師を目指す学生にはヤマハ音楽指導グレード5級資格取得準備講座、音楽教室how to セミナー等を開催した。一般的な就職活動にも応用できる講座にも取り組んでいる。資格取得を目的としながら、ビジネスマナーにも応用できる秘書検定2級対策講座、就職活動で避けては通れない面接試験突破を目指す面接必勝講座を開催した。なお、将来的にTOEIC、TOEFL等の資格試験で役立つリスニングや単語力の上達を目指す英会話講座も新たに開催した。

インターンシップは公共ホールや楽器店、楽団など受入先を開拓し、27の事業所で夏期・春期併せて延べ49名が体験した。終了後、体験学生によるインターンシップ振り返り会と報告会を行った。

●2014年度進路調査結果(2015年3月卒業生、2014年9月卒業生含む)

		大学	短大	大学院	大専	短専
就職	音楽教室(企業)	16	5	0	2	2
	音楽教室(自営)	6	3	0	0	1
	演奏活動	6	2	1	2	0
	企業	35	22	1	6	2
	教員	20	4	3	3	0
	公務員	3	0	0	1	1
	その他	1	0	0	0	2
	小計	87	36	5	14	8
進学		50	32	2	1	3
その他	フリーランス	1	3	0	0	0
	アルバイトしながら演奏活動	17	19	1	2	3
	その他(未提出含む)	11	18	2	1	1
	小計	29	40	3	3	4
卒業・修了者数		166	108	10	18	15

<エクステンション関連>

キャリア支援センターが実施するエクステンション関連事業は、指導者研修と教員免許状更新講習の2件で、受講者はそれぞれ273名、643名であった。(人数は延べ数)

<連携関連>

連携支援センターでは、大学の教育研究活動の一端を地域社会に還元するため、自治体・公共団体・自治会・公民館・ボランティア団体・企業等さまざまな分野の団体と連携を結び社会貢献活動を実施した。当センターの連携関係事業は、大きく分けて公開講座、社会学連携事業、被災地支援活動、創立100周年記念事業、依頼演奏、音楽の仕事情報館等に分類することができる。

■公開講座

「ミレニアムホール特別講座(年4回)」「オペラ物知り講座(年4回)」「一般社会人のためのオペラ講座」を開講した。また、豊中市、高槻市、羽曳野市、NPO法人大阪府高齢者大学校など自治体・公共団体と連携協力して提携講座の実施、講師派遣を行った。

連携支援センターで実施してきた上記の講座と内容的に大変類似した内容の講座を音楽院でも開催しており、同種業務の統一化を図るため2015年度から上記3件の講座については附属音楽院に移管する。

■社会学連携事業

・サウンドスクール事業

豊中市教育委員会と連携してサウンドスクール事業を実施し、市立の幼稚園・小学校・中学校での授業支援、出張演奏会、クラブ活動支援といった活動を年間53件(幼稚園7件、小学校30件、中学校16件)実施し、延べ795名の学生(卒業生・教員含む)を教育現場へ派遣した。

・地域社会との連携

- ①豊中市との共催で「豊中音楽月間」「オーケストラの日」「市民ロビーゆうゆうコンサート」等の実施、豊中中央ライオンズクラブ・豊中市との共催で「豊中子ども音楽フェスティバル」を実施した。また、豊中中央ライオンズクラブの運営資金援助により「豊中病院ランチタイムコンサート」を実施した。また今回で第6回目となる、大阪大学・大阪音楽大学ジョイント企画の「アンドロイド・ロボット演劇と鼎談」の公演を大阪大学、大阪音楽大学、豊中市の三者共催事業として実施した。
- ②野田校区社会福祉委員会の依頼により本学の学生サロンぱうぜを会場として「いきいきサロン」の催事名称で地域のお年寄りの方たちの憩いの場を提供し、その中で本学卒業生によるコンサートも開催した。
- ③富田林市のすばるホールとの連携で、市内の8中学校で吹奏楽講習会を開催した。
- ④寝屋川市との包括連携協定により、市主催事業のコンクールやミュージカルの運営に協力した。

■被災地支援活動

被災地支援活動は継続実施が大きな目標ですが、2014年度は継続実施している「石巻わがふる里」のCDを市内の中学生に卒業記念品として贈呈した。また、大阪市在住の方から寄付頂いた楽譜とLPレコードを市内の高等学校に贈呈した。

■創立100周年記念事業

創立100周年記念事業として4件の記念公演を開催したが、各公演とも記念事業として相応しい内容であった。

■依頼演奏

自治体、公益法人、ボランティア団体、学校、企業個人等から多くの演奏依頼を受け、卒業生支援の一環として一定の演奏水準を保ちつつ演奏者の手配・派遣等マネージメント業務を行った。これは卒業生の活躍の場を確保するとともに大学の広報活動の一翼を担った事業であり、最近是在学生でも大変優秀な個人やグループ

については演奏を依頼し実地研修の場として活用している。

■音楽の仕事情報館

音楽の仕事情報館は、2014年度にキャリア支援センターから連携支援センターに移管した業務で、主として学生の演奏会の企画・運営・実施(演奏) インターンシップを目的として開設している。その中での社会連携事業としては、恒常的なものとして2件挙げることができる。

①ミント神戸「ストリートライブ」

神戸三宮にある複合型商業施設「ミント神戸」の運営会社と連携協力し、施設の屋外で演奏することにより来館されたお客さんに生の音楽を楽しんでもらうこと及び学生の演奏活動体験研修を目的としている。

②庄内公民館「庄内音楽のまち」

豊中市立庄内公民館と連携協力し、豊中市民を対象として、公民館から提示されたテーマに沿った内容のコンサートを企画実施することにより、学生の演奏技術や企画力・運営方法の向上を図ることを目的としている。

創立100周年記念事業

●要旨

創立100周年記念プロジェクトとして、4件の記念公演を実施した。

①2014年6月13日(金) 18:30 開演 ミレニアムホール

オーボエ&クラリネット「室内楽の愉しみ」名手若尾圭介とパスカル・モラゲスを迎えて

②2014年10月18日(土) 14:00 開演 ザ・カレッジ・オペラハウス

ジュネーブ公式楽団 ランドヴェール音楽隊 国際交流演奏会

③2014年10月31日(金) 18:00 開演 ミレニアムホール

スティーブ・コーエン クラリネット マスタークラス&リサイタル

④2015年1月25日(日) 15:00 開演 ミレニアムホール

第6回大阪大学・大阪音楽大学ジョイント企画 第1部 アンドロイド演劇『さよなら』第2部 鼎談「人とはなにか。心とはなにか。～芸術と技術、科学と哲学の交わる場所」

●成果及び達成度

4公演とも創立100周年記念事業に相応しく、それぞれの分野で活躍されている出演者が素晴らしい内容で公演を行った。参加した学生たちは大変貴重な経験を積めた。

●公的助成・民間助成

豊中音楽月間参加公演は豊中市からの負担金支出あり。

●今後の展望

2015年度は総仕上げの100周年記念の年になるため、新たに特別の企画を考えて公演を実施したい。

被災地復興支援活動

●要旨

東日本大震災で大きな被害を受けた被災地への支援を継続的に行い、音楽の力で勇気と希望を被災者に届けるという活動を行っている。

●成果及び達成度

2014年度についても、2012年度より継続実施している「石巻・わがふる里」のCDを石巻市に届ける活動を行い、市内9校の中学3年生に卒業の記念品として749枚を贈呈した。また、大阪市在住の方から楽譜250冊と

LPレコード寄付の申し出があり、連携支援センターを通して石巻市立女子高等学校に贈呈した。

●今後の展望

CDの贈呈については、子供たちを中心にできる限り多くの石巻市民に行き渡るよう、最低でも5年間は継続して実施したい。

産業界のニーズに対応した教育改革・充実体制整備事業

●要旨

<産業界ニーズ事業【テーマA】 協働取組>

本事業は2012年度に大阪・兵庫・和歌山の14大学・短期大学が協働し、事業名「産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実」として文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の採択を受けたものである。補助事業として2014年度が最終年度となる。14大学協働取組と本学独自取組とがあり、両取組を並行して進めた。

- ・産官学連携のPBL (Project-Based Learning) モデルプログラムを実施した。
- ・14大学合同フォーラム「みんなでつくろう 明日の人材」を開催した。
- ・14大学連携会議を定期開催した。

<産業界ニーズ事業【テーマA】 独自取組>

- ・トークイベント「音楽講師、あれこれ」を開催した。
- ・名刺作成講座及びPV (プロモーション・ビデオ) 作成講座を実施した。
- ・日本語ライティング支援室にて文書添削指導を行った。
- ・日本語ライティング支援室発行の広報誌『WRITING NOTE』にて学生記者プロジェクトを実施した。

<産業界ニーズ事業【テーマB】 協働取組>

前記に加え、今年度は文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業【テーマB】 インターンシップ等の取組拡大」の採択も受け、前記14大学のうち大阪・兵庫・和歌山の9大学と連携して協働取組を行った。当該事業は次年度(2015年度)までの2年間の補助事業である。

- ・9大学協働でインターンシップに関する産学交流会、専門人材育成研修会、大学連携ワーキンググループを実施した。
- ・全国組織インターンシップ研修会に参加した。

●成果及び達成度

<産業界ニーズ事業【テーマA】 協働取組>

- ・産官学連携PBLモデルプログラムには学生5名が参加し、2泊3日の合宿形式で南海電気鉄道株式会社・兵庫県庁・キミノカから提案された課題に取り組んだ。課題を通じて学生は議論とプレゼンテーションを学び、協力企業からは、音大生の自己表現力は他大学生に比べ大きな長所であるとの声をいただいた。
- ・14大学合同フォーラムには学生5名と教職員9名が参加した。学生による提案「行動から始まる私たちの大学へ学生から学生へ届けよう」や大学独自取組のポスター発表を通じて、情報共有と意見交換を行った。合同フォーラム終了後は参加学生2名がランチタイムミーティングを企画し、学生5名と教職員2名が参加してキャリアデザインの為のミーティングを行った。
- ・14大学連携会議は6回開催し、人材育成について議論を行った。議論の成果として新たな連携体制構築の必要性が確認できた為、産官学協働人材育成機構(通称:AICE)を設立した。2015年度から試験的に運用を行う。

<産業界ニーズ事業【テーマA】 独自取組>

- ・キャリアデザイン支援の為、トークイベント「音楽講師、あれこれ」を3回開催した。本学卒業生を講師役として招き、コミュニケーション力の重要性などを学生に伝えた。
- ・社会人基礎力育成支援の為、名刺作成講座を11回、PV（プロモーション・ビデオ）作成講座を1回実施した。
- ・社会人基礎力育成支援の為、日本語ライティング支援室にて文書添削指導を行った。相談件数は約200件。それらの指導事例をまとめ、「大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 日本語ライティング支援室の実践報告—構想段階と推敲段階における指導事例集—」（大阪音楽大学研究紀要 第五十三号 2015年3月発行）として発表した。
- ・学内PBLとして、日本語ライティング支援室発行の広報誌『WRITING NOTE vol.12』（B6判16頁、2014年7月発行）及び『WRITING NOTE vol.13』（B6判16頁、2015年2月発行）に学生記者13名を参加させた。記事作りを通してコミュニケーション力や文章力などを身につけるよう指導した。

<産業界ニーズ事業【テーマB】 協働取組>

- ・インターンシップ取組拡大の為、9大学協働で産学交流会及び専門人材育成研修会を実施した。産学交流会には学生2名と教職員4名、専門人材育成研修会には教職員7名が参加し、インターンシップに関する情報共有と意見交換を行った。また9大学連携ワーキンググループを6回開催し、教職員が参加して議論を行った。成果は『インターンシップ これが問題！集』（2015年3月発行）にまとめた。
- ・9大学以外が主催する全国組織インターンシップ研修会に教職員7名が参加した。研修で多くの知見を得ることができ、それらを報告書にまとめ、学内にて情報共有を行った。

●公的助成・民間助成

<産業界ニーズ事業【テーマA】>

本事業は、「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」として大学改革推進等補助金の認定を平成24年9月20日付（文科高第536号）にて受けている。この「産業界ニーズ事業」は大学間連携に基づくブロックとして採択を得ており、本学（短期大学部含む）は「大阪・兵庫・和歌山ブロック」に1大学・1短大として参加し、国庫補助金も幹事校である大阪府立大学に支給され、各大学からの補助金調書申請・承認に基づき配分されている。

<産業界ニーズ事業【テーマB】>

本事業は「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業【テーマB】インターンシップ等の取組拡大」として大学改革推進等補助金の認定を平成26年5月13日付（26受文科高第224号）にて受けている。この「産業界ニーズ事業【テーマB】」は大学間連携に基づくブロックとして採択を得ており、本学（大阪音楽大学短期大学部を含む）は「大阪・兵庫・和歌山ブロック」に1大学・1短大として参加し、国庫補助金も幹事校である和歌山大学に支給され、各大学からの補助金調書申請・承認に基づき配分されている。

●今後の展望

2015年度は「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業【テーマB】インターンシップ等の取組拡大」について文部科学省より交付内定を得ており、事業を継続する予定である。【テーマB】を除く事業については、本学自己負担により取組を継続していく予定である。

●継続事業の中で特筆すべきもの、その成果など

産官学協働人材育成機構（通称：AICE）は今年度のPBLモデルプログラムの成果をふまえ、2015年度も産官学連携PBLプログラムを企画している。また「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業【テーマB】インターンシップ等の取組拡大」では大学連携の広域インターンシップ等を企画しており、関西地域のインターンシップ支援団体や経営者団体等と連携を構築中である。

【3】オペラハウス事業

本格的なオペラ公演のできるホールとして建設されたザ・カレッジ・オペラハウスは、2014年度に開館25周年を迎えた。「新音楽、新歌劇の発生地足らん」という建学の精神に謳われている創立者の大志を実現すべく、これまで多数のオペラ公演を行い、とりわけ20世紀オペラ・シリーズでは、三菱UFJ信託音楽賞や文化庁芸術祭において過去2度にわたって芸術祭大賞を獲得するなど、多大な成果を上げてきた。

オペラハウス主催公演の核となるオペラ公演では、現在の本法人の財政状況を鑑みて、コスト削減を図り、助成金などを獲得しながら、オペラハウスの存在意義、使命に沿った計画を策定し、事業内容の充実を図ってきた。本学の創立100周年記念プロジェクトの4年目に当たる2014年度は、年間テーマを「オペラ×現代」としていたこともあり、日本の重要な古典芸能である「能」と「狂言」を、20世紀の作曲家がいかにかに現代的視点からその意味を読み解きオペラ化したかを、ベンジャミン・ブリテン作曲「カーリユー・リヴァー」鈴木英明作曲「鬼娘恋首引」という洋の東西の2つの作品を通じて、様々な側面から明らかにすることを試みた。

その結果、文化庁芸術祭において、実に他に類例のない3度目の芸術祭大賞を受賞するという快挙を達成した。なお今回は、演出にプロジェクション・マッピングという手法を用いることによってコストの削減を図るとともに、芸術文化振興基金、公益財団法人ロームミュージックファンデーション、公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団、公益財団法人朝日新聞文化財団、公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団、公益財団法人五島記念文化財団、公益財団法人花王芸術・科学財団、公益財団法人朝日新聞文化財団などから多くの補助を得るなど、事業目標を十分に達成することができた。

一方オペラハウスは、教育、研究の成果発表の場として、また学校法人として様々な催事の会場として広い用途にも活用されている。例えば、大学主催演奏会として11公演を開催し、4060名が入場した。また学生の自主公演として開催されている、授業の延長にあるコンサートを11公演開催し、4053名が入場した。さらにクラシック系の専攻で学ぶ学生は、卒業実技試験の際、この舞台で必ず演奏の機会を持つことになっているが、その結果27回に及ぶ卒業・修了演奏が実施され、2320名が入場した。

その他にも、付属音楽幼稚園の公演が2回、本学同窓会の公演が1回行われ、合わせて1985名の入場者を得た。またオープンキャンパス、講座やセミナー、入学式、卒業式、共催事業など多岐にわたる事業が実施され、12件で3275名の入場者があった。その結果、年間催事総数は58件、総入場者数は21928名、総稼働日数は210日に及んでいる。

また、付属のオペラハウス管弦楽団は、京阪神地域を中心に11件20回の依頼演奏を実施し、特に様々な団体のオペラ公演には欠かせない存在になっている。また平成26年度文化庁「文化芸術による子供の育成事業（巡回公演事業）」を担い、茨城、千葉、山梨各県及び東京都の1都3県で巡回公演事業を実施し、ワークショップや演奏会を各19回開催した。

関東地方での巡回公演の実施は、本学の名を広く関東にも知らしめる成果を収めている。

文化庁巡回公演事業

●要旨

この事業は、小学校・中学校において一流の文化芸術団体による巡回公演を行い、子供たちに優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、彼らの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としている。学校法人大阪音楽大学では、自らが制作団体となり、公演団体をザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団として2010年度から実施し、2014年度は5年目となる。2014年度は、関東地方の茨城県・千葉県・東京都・山梨県・千葉市において、小学校17校、中学校2校、合計19校で公演を実施した。

●成果及び達成度

本公演の実施にあたり、事前に公演に関するワークショップを行い、オーケストラの説明や楽器紹介・ミニコンサートなどを実施した。また、児童・生徒との共演の演目の実演指導を行い、本公演に向けて子供たちの関心を高めた。

本公演では、オーケストラの演奏を鑑賞するだけでなく、床から伝わる音の振動など、体育館ならではの臨場感あふれる体験をすることができた。また、プロのオペラ歌手の歌声にも触れることができ、指揮者体験コーナーや共演コーナーではオーケストラと子供たちとのコラボレーションも実現した。本学とは縁が薄い関東地方での巡回公演であったが、結果的に本学の名を遠く関東にも知らしめる成果も得ることができた。

●今後の展望

2015年度は、大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県において14公演の実施が採択されており、6月からワークショップの実施を予定している。いずれも近畿から離れた地での公演であるが、本学の名を日本全国に広める一助となるよう努力する。

【4】 付属音楽院

2014年度講座受講者数は3,400名（3ヶ月1期とした延べ人数）で、対前年度比8%増となった。音楽院の主要セクターごとの受講者数は以下のとおりである（それぞれ3ヶ月1期での延べ人数）。

講座名	内容	受講者数	前年度比
教養講座	社会人向けの生涯学習	1,768名	8%増
こども音楽教育講座	幼児～中学生向けの早期教育	661名	3%増
進学コース	高校生（既卒者を含む）向けの進学対策	21名	40%減
個人レッスン	—	950名	13%増

2014年度に一部講座をリニューアルした結果、進学コースを除き各セクターともに受講生は前年度比増となった。進学コースについては、入試事務部門と連携をとりつつリニューアルを進めてはいるが、大幅減となった。外部ショッピングモールにて「こどものためのコンサート」を1回開催（2013年年度は2回）したが、集客はあまるものの、その後の受講等には目立った効果は見られなかった。

食事をしながらでも気軽に聴けるコンサートをコンセプトに、学生食堂2階で無料のランチタイムコンサートを15回開催した。出演者は音楽院の講師等を中心に、教養講座に結びつく様な演奏者を選んだ。最初の頃は集客に苦労したり、「周りが騒がしい」などのご意見を頂戴したりしたが、積極的な広報で徐々に集客が安定してきた。土曜日に来校している会員へのサービスの役目を果たしつつ、音楽院を知らなかった新規の来場者の割合が確実に増加してきた。直接新規会員獲得につながっている感触はないが、音楽院の広報にはなっている。

9月に実施した「音楽院コンサート」は集客は324名にとどまったが、内容の評判もよく音楽院の催し物に対するニーズは高いと考える。反省点としては、全体の時間が長すぎた事や曲目、観客マナーについてのアンケートでご意見があった。今後も、新規受講者（顧客）の獲得及び既存会員の満足度を高めるべく、定期的なランチタイムコンサートの開催や、会員特典の充実（練習室の有料貸出ほか）など、採算を意識した運営を行っていく。12月にリニューアルしたホームページは、スマホ、タブレット、パソコンなどの端末でも自動的にレイアウトが適正な画面に調整されるもので、記事の更新も簡単にでき、見た方からの評判も良い。アクセス数は日々コンスタントに500件以上あり、ホームページからの講座申込、問い合わせが確実に増えている。紙媒体への広告掲載については、一般紙、地域情報紙（フリーペーパー）、幼稚園向け情報誌（無料）、有名ホールの情報誌などに広告や記事を掲載し、その効果も実感できる。また情報誌等が主催するイベントを上手く利用する事で相乗効果が得られる事が分かった。

尚、2015年は3年に一度の講師登録の更新年度で、その業務を2014年度に行った。

こども音楽教育講座の会員数拡充・定着率向上のためのキャンペーン実施

●要旨

<こども音楽教育講座無料体験>

4月に、こども音楽教育講座無料体験を実施。受講者数延べ127名の参加者を得た。そのうち延べ18名の参加者が新規受講を申し込みされた。8月9月にも弦楽器の無料体験を実施。

<夏の音楽院フェスティバル>

7月に、「夏の音楽院フェスティバル」として親子コンサートや楽器作り体験教室など各種講座を予定していたが、台風のため中止。

<クリスマス会>

12月にばうぜ2階にて恒例のクリスマス会（幼児音楽クラス講師・アシスタントが出演）を行い、200名以上の参加者を得た。

<ミュージックカーニバル>

こども音楽教育講座ならびに個人レッスンを受講の中学生以下の幼児・児童を対象とした発表会（一部教養講座含）を実施（総出演者数394名）。

<その他>

5月に外部ショッピングモールにて行った「こどものためのコンサート」（ミュージカル・コースの教員・学生が出演）では、合計約500名の観客を動員。前年度イベントとして実施した「ジュニアコーラス Pa・Pa・Pa」は、日曜日の通年の講座として開講。キッズジュニアミュージカルは講座を企画したものの受講生が集まらず開講中止。三歳児親子のための音楽教室は無料体験日の後、6回実施。

●成果及び達成度

<こども音楽教育講座無料体験>

2013年度の反省から、2014年度は半日規模を二日間に分けて実施したが結果的には前年度を下回った。無料体験は、受講への不安を軽減させる以外に、受講前のイメージと実際の受講時の内容との違いによるクレームを回避するためにも有用である。2015年度は講座に合わせて土曜日に開講する。事前の広報活動を行った結果、2015年4月に予定している無料体験は、ほぼ満員である。その他イベントの広報の場としても活用でき、新規会員の獲得や受講者の増加に繋がっている。

<夏の音楽院フェスティバル>

「親子コンサート」と題して、家族で楽しめるコンサートをミレニアムホールで行い、普段一般の方が触れることの無い楽器を身近に感じる機会などの企画をしていたが、台風のために中止。今後の課題としては、プログラムの時間配分をより家族向けに検討していく必要がある。

<クリスマス会>

例年に引き続き多くの参加者を得た。昨年よりもプレゼント代などの経費を削減して実施したが、参加者の満足度は低下すること無く、身近に音楽を感じられる場所として音楽院のクリスマス会が定着したように見受けられた。

<ミュージックカーニバル>

会員サービスの向上と共に、幅広い年齢層の会員への舞台経験を体験させることにより、継続受講へのモチベーションアップにつながったのではないかと考える。カメラ、ビデオの撮影エリアを設け自由に撮影出来る様にしていたが、注意事項についてはより徹底するために、次年度よりプログラムに印刷するなどの方法を検

討する。

<その他>

外部ショッピングモールでのコンサートは、音楽院の存在を広報する場としては有用であったが、経費の割には受講には結びつかなかった。2015年2月に幼稚園向け無料情報誌「あんふあん」のイベントに出展し、ミニコンサートも行ったが、予想以上の集客で対応が追いつかないほどであった。2015年4月の無料体験に誘導でき、情報誌に広告を掲載した相乗効果が出ている。

●今後の展望

これまでの実績を踏まえて、夏の音楽院フェスティバル及び特別講座、並びに音楽院コンサートや発表会などを実施する予定であるが、対象・形体・内容などを見直し、より収益性の高い講座、コンサートを展開し、顧客満足度の向上にもつとめたい。今後もこどもの音楽教育に重点を置いて、体験講座・講座開講並びに広報を行っていくこととする。

進学関連事業充実のためのキャンペーンの検討及び実力診断の広報拡充

●要旨

<音楽系志望者のための実力診断 実施状況>

「進学コース前期公開実技試験」に合わせて、2014年9月21日（日）に実施。ピアノ2名、フルート1名、声楽1名 計4名

<小学生のための実力診断 実施状況>

2014年8月23日（土）に実施。ピアノ14名、ヴァイオリン2名 計16名

<社会人のための実力診断 新規実施>

声楽に限定し、2014年7月6日（日）に実施。18名（2名キャンセル）

<進学コースリニューアルに向けての検討>

多様な入試が設定されている状況で、毎週火曜日の夕方に受講する必要がある進学コース特別推薦が多忙な高校生にとって現実的であるのかの検討を継続中。ソルフェージュ・楽典をしっかりと学ぶことのできる学科授業のニーズは高く、入試事務部門及び学科・実技の両主任の意見をも伺いながら、より具体的なリニューアル案を固めていく必要がある。

●成果及び達成度

<音楽系志望者のための実力診断>

ミレニアムホールを使用して、大学の教員による実技審査を受けられる機会は貴重であるとする。対象は中学生以上としており、中学生・高校生で占められているが、前年度は高校卒業後の参加者や大学受験を考える社会人の参加者も見受けられた。実施後に送付しているアドバイスシートの判定や講評が参加者の満足度を高めていると考えられる。今後も、入試事務部門と主に広報面において連携をはかりながら、中学生・高校生をメインターゲットとしつつも、幅広い層の参加者を受け入れていきたい。

<小学生のための実力診断>

小学生にとって、本格的なホールで、かつコンクールとは違い自由曲で参加できる機会は珍しく、参加者の満足度は高い結果となった。今年度は優秀者によるコンサートを2015年3月21日に実施。多感で吸収力の高い時期に本学教員による具体的なアドバイスを受けられたことは、参加者・保護者にとって強い印象を与えられたものとする。また優秀者によるコンサートも質の高いものとなった。

<社会人のための実力診断>

声楽限定では有るが、教養講座受講中の会員以外に、広範囲な受診者が集まった。ミレニアムホールで歌い、

大学教員からアドバイスを受けられる機会は貴重で、今後も続けると共に、社会人入試にも繋げる可能性も考えられる。

<進学コースリニューアルに向けての検討>

2015年度に向け、引き続き検討を進めていく。2014年度は、進学コースの受講生に限り副科ピアノの個人レッスンを割引するなど、従来の枠の中での小規模なアレンジにとどめた。

●今後の展望

これまでの実績を踏まえて、引き続き、2016年度に向けて実力診断及び進学コース関連のリニューアルを進めていく。入試事務部門ともこれまで以上に連携を深め、情報交換や新規の取り組みの相談を密に行っていく。「進学コース」では、受験を検討している一人ひとりについて、入試制度を含めた適切なアドバイスを行い、マンツーマンレッスンと基礎科目の組み合わせや、基礎科目をマンツーマンで行う等のきめ細かい対応を入試事務部門と連動して行っていく。「到達度テスト」などについて音楽院の進学コースに何らかの形で組み込めないか検討を行う。

C 法人組織運営事業

【1】広報活動

2014年度は本学の建学の精神、教育理念・目標・成果を様々な形で社会に発信することを目的とし、テレビや新聞などのマスメディア、集客力ある施設での広報的イベント、ネット端末普及の対応した動画や SNS の活用、リーフレットなどの広報物制作、各種広告展開など、あらゆる機会・媒体を情報発信の場としてとらえ広報活動を展開した。

テレビにおいては露出機会を積極的に活用し、情報番組からバラエティ、地元豊中市の広報番組まで、学生・教員の出演・施設の映像を通じ、本学の魅力を発信する機会とした。集客力のある大阪・梅田地区のデパートやデパート、スポーツ関連企業等と連携し学生主体の編成による広報的イベント演奏も昨年度に引き続き積極的に実施した。これらのメディアや演奏イベントを通じて、本学の多様な専攻・コースの存在と教育の充実を発信した。また、これらの活動は主催企業が発行する情報紙や広告、ポスター、ホームページ、SNS 等でも案内告知され、実施後にも新聞記事掲載やインターネット上で反響があるなど広報的価値を高めた。

インターネット関連はホームページを中心に Facebook、Twitter、LINE、アプリ等の SNS も活用し、各ツールの特徴、利用層、情報の内容、タイミング等も配慮しつつ、入試、イベント、ニュースなど本学の動きを伝えるものとして情報配信を行った。また、2016年度に開講予定の新専攻告知活動の一環として、大手検索エンジンや SNS のネットプロモーション広告も活用した。

また、2016年度の入試広報活動に向け、新設予定も含めた各専攻・コースの教育的な特徴や魅力をより強く伝えるための専攻・コース毎のリーフレットの制作も行った。さらに一部の専攻・コースにおいてはコンセプト動画を制作しホームページ、SNS、Youtube 上で展開、興味を喚起する役目を担った。

創立 100 周年の関連事業として、より多くの方に本学の歴史を知ってもらおうとこれまで本学が蓄積してきた写真や資料を活用したビジュアル的な年表の制作を開始し、ホームページの特設サイトにて順次公開を開始した。新聞にも本件に関する記事が掲載されるなどし、翌年に控えた創立 100 周年の盛り上げを図った。

「大学ブランド力」強化を目的とした広報活動

●要旨

大学の認知度向上、イメージ向上などを目的とした学校広報と志願者獲得を主目的とした入試広報の両活動を通じて、本学の建学の精神、教育理念・目標・成果を社会に対し発信することにより、大学の存在価値を高める。

●成果及び達成度

NHK大阪の中高生をメインターゲットとした情報番組において、作曲、ピアノ、管弦打楽器、クラシックギター、ダンスパフォーマンスの学生が番組のジングルを作曲、生演奏する模様が多くの時間を割いて放映され、さらにそのジングルがその後も本学名のテロップ入りで毎週番組で使われるなどした。

また、阪急うめだ本店「祝祭広場」における「レインスタイルコレクション」、「ディズニープリンセスコレクション」などの催事やJR大阪駅「時空の広場」における「フラワーフェスティバル」、「トワイライトファンタジー」などのイベントと連動した企画演奏、JRAのGIレースにおける発走ファンファーレ演奏など、学生主体の編成による広報的イベント演奏を企業とコラボレーションする形で前年度に引き続き積極的に行った。

これらのテレビ出演や集客力ある施設での演奏は、各専攻・コース生の日々の学習の成果を広く社会に披露する場となり、音楽を通じて社会に貢献する活動となった。また、主催者による広告やポスター、ちらし、ホームページやSNSでも案内され、実施後にもSNS等インターネット上で反響があるなど広報的な価値が高まる結果をもたらした。

●今後の展望

様々な機会や形で本学の取り組みを発信することにより、本学及び各専攻・コースに対する認知度、イメージを高め、最終的に志願者層及びその保護者層に対して本学への興味喚起につなげ、入試広報に好循環をもたらしていく。

専攻別 PR 動画制作

●要旨

スマートフォンやパソコンの普及に伴いインターネット動画を日常的に閲覧する志願者層をメインターゲットとし、本学の専攻・コースへの興味喚起を目的としたコンテンツの一つとして、専攻・コース(一部)のコンセプト動画を制作し、本学ホームページ、公式 SNS、Youtube 上にて展開した。

●成果及び達成度

制作した7つの動画の1年間の閲覧合計数は約16,000回(内訳:声楽2,155、ピアノ2,165、管楽器3,000、弦楽器2,200、打楽器2,600、ポピュラー1,165、総合2,700)であり、1ヶ月平均で約1,300回、いずれかの動画が閲覧されている計算となった。

●今後の展望

インターネット上の展開に加え、各専攻・コースのパンフレットのAR動画として誌面と融合を図ったり、各種イベント時にCM的に映像を流すなど活用の幅を広げ、本学及び各専攻・コースに対する興味を喚起するひとつのツールとして、入試広報に好循環をもたらしていく。

【2】施設・設備

施設・設備の整備においては、①ばうぜ改修工事、②オペラハウス調光室・音響室エアコン、照明機器取替工事、③付属幼稚園関連工事、④練習室予約システム構築の4件を行った。

①については、食器洗浄機は従来の物よりコンパクトに設計されており電気、ガス、水道使用についても省エネ効果がある。食器返却口についても人感センサーによる流水で食器の汚れもある程度洗い流されるので、清潔感がある。洗浄機の入替えに合わせて、洗い場の床、水回りをリニューアルし以前より清潔になった。入口天井照明器具をLEDに変えた事で省エネに繋がった。冷蔵庫4台を節電タイプのものに入れ替えた事により電気使用量の削減に繋がった。

②については、竣工当時から使用しており交換部品もなく、応急処置として基盤交換を行ったが、故障した場

合、機器類に不具合や悪影響を及ぼし本番収録業務に支障をきたす為、調光室・音響室エアコン更新工事を行った。エアコン入替により機器類が冷却出来るようになり、熱暴走や映像が乱れる事もなく安定して収録出来るようになった。また、電気使用量の削減にも繋がった。照明機器についてはスポットライトのモーガル付ケーブルが経年劣化に伴い照明機器の熱で導線の被膜が破れ、芯線が見える状態であり、断線や漏電により火災につながる可能性があるため早急に取替え工事を行った。天井に吊っているため火災や漏電の心配もあったが危険性を解消できた。

③については、人工芝を張替た事により各教室出入口付近での躓きによる転倒の危険性は低くなり、保護者はもとより幼稚園見学者、来園者にも好評を得た。正面玄関の北側登り口にスロープが出来た事によりベビーカー使用の来園者には好評である。女子トイレにベビーキーパーを設置し、洋式便器に変更した事で幼児連れの利用の利便性が向上した。また、手洗い場にジェットタオル(エアータオル)を設置し、衛生面にも配慮した。

④については、希望の練習室を利用したいために早朝から窓口に並ぶ学生が多く、遠隔地の通学者や保護者より改善策を求められていたため、スマートフォンやパソコンを使った予約システムを構築した。導入するにあたり学生に対し予約システム説明会を5月末より9月初旬にかけて後期授業開始1週間前より13回開催した。システムを導入した結果、学生は授業計画等が立てやすくなり、何処からでも、リアルタイムに練習室の空き状況が確認できるようになった。

【3】法人の運営

少子化、クラシック離れ等、本学を取り巻く社会環境は厳しく、これに対する成長戦略として、「収益性を意識した教育体制の構築」と「キャリアを意識した教育の実施」という2つのテーマを軸に、「音楽実技系以外での音楽関連多人数教育体制の構築」をめざし、音楽学部にて従来の音楽実技系の専攻に加えて2つの新専攻を2016年度に開設することを決定した。キャリアを意識し、商業音楽の制作を目的としたミュージッククリエイション専攻と、現音楽学専攻を再編して、より社会のニーズにあわせ、音楽によるコミュニケーションの場をデザインするミュージックコミュニケーション専攻である。新専攻の立上げに伴い、2016年度に音楽学専攻の募集を停止することになった。

キャンパスマスタープラン実現の第一段階として、老朽化しているK号館や耐震補強が必要なC号館の機能を包括した新校舎の建設計画をまとめた。教育研究施設はもとより、音楽博物館や図書館を備え、音楽文化の向上や研究に資する拠点になることを目指している。この新校舎の基本計画から実施設計をまとめ上げた。

新校舎の建設に伴い、建設資金の一部、とりわけ、環境整備、緑化事業、学生使用施設の内装充実に資する資金として活用することを目的とした「創立100周年記念新校舎建設募金」活動を実施した。募金期間を2014年9月16日から1年間とし、目標額は1億円とした。大学・短大・専攻科・大学院・旧音楽学校・旧高校の卒業生、在学生、保護者、教職員、企業、篤志家をはじめ賛同いただける方々を対象に寄付金事業を展開した。

また、今年度は理事会を5回、評議員会を3回開催した。理事会において決定した学校法人の業務並びに理事長の職務を円滑に遂行するために、常任理事会を25回開催し、延べ195件の議題を審議した。また、各役職者の意思疎通と連絡調整を目的とする執行部連絡協議会を6回開催した。

今年度の教職員数は521名、内専任教員は73名(大学・短大60名、付属音楽幼稚園教諭13名)、専任職員69名。この内年度中の退職者は40名(専任教員5名、専任職員9名、非常勤講師19名、その他7名)であった。

新校舎建設工事

●要旨

2013年度に策定された「キャンパスマスタープラン」に基づき、老朽化の激しいK号館と耐震化対策が必要な

C号館の機能を複合させた代替校舎を野田校地に建設するための事業を開始した。建築士が参加したプロジェクトチームにより、新校舎の基本計画を策定し、各専攻の教員にヒアリングを行った後、基本設計及び実施設計へと進行させた。また並行して、建設工事に係る官公庁への申請業務と近隣住民への事前説明を行った。次年度以降は、業者選定を行い、新校舎建設着工につなげる。

●成果及び達成度

2014年度当初は、2014年度10月頃の工事着工を予定していたが、①各専攻の要望事項を基本計画に反映する作業②近隣住民に対する工事内容の事前説明③建設工事に関する豊中市への申請業務④補助金申請業務の4件について遅れが生じたため、工事着工は2015年7月頃となる見込みである。

●公的助成・民間助成

文部科学省に「学校施設耐震改築事業補助金」と新関西国際空港株式会社に「大阪国際空港教育施設等騒音防止対策事業補助金」を申請予定。

●今後の展望

2015年7月に着工し、2016年10月頃竣工の予定である。新校舎の利用開始は2017年4月を予定している。

大阪音楽大学 100 周年記念誌

●要旨

創立100周年誌編集室では記念誌を紙媒体としてではなく、本学ホームページに「WEB年表」を設け、この年表中の記事を定期的に更新することにより編集作業を進めている。この年表では1915年の開学を出発点として、本学の歴史と関西洋楽界における重要事項を5年単位で記事としてとりまとめ、公開する分量を順次増やしている。また、これと同時に創設者・永井幸次を始めとする教育者や演奏家の貴重な写真をデジタル化し、記事と共に年表に掲出している。

●成果及び達成度

2015年10月15日の創立記念式典当日に、WEB年表のダイジェスト版を印刷物として来場者に配付する予定である。

●今後の展望

WEB年表の完成後、その成果を1冊の書籍として発刊する予定である。

創立 100 周年に伴う地域事業との連携（創立 100 周年記念ワイン）

●要旨

2015年の本学創立100周年を地域で祝おうと豊中の地域事業者が主体となって、記念オリジナルワインの開発や商店街との連携イベントを企画しており、これに対し連携・協力を行う。

●成果及び達成度

記念オリジナルワイン制作におけるワイン及びラベルデザインの選定に関わった。このワインを2015年秋のオペラ公演や記念イベントにおいて活用するため、1,500本の仕入れ手続きを行った。

また、本学で行われる演奏会に来場された方に対し、庄内地域の店舗で利用できる「庄内サービスパスポート」を限定で配布する企画が開始され、地域との連携を図った。

●今後の展望

記念オリジナルワインの飲食店での展開や庄内サービスパスポートの配布継続、音楽があふれる街づくりなど、創立100周年当該年度におけるより一層の盛り上げ策が地域事業者において検討されており、連携により地域の魅力向上に貢献していく。

創立 100 周年記念事業 新校舎建設資金等に資する寄付金事業

●要旨

創立 100 周年記念プロジェクトとして建設する新校舎建設資金の一部、とりわけ学内の環境整備、緑化事業、学生使用施設の内装充実に資する資金として活用することを目的とした募金活動を実施した。大学・短大・専攻科・大学院・旧音楽学校・旧高校の卒業生、在校生、保護者、教職員、企業、篤志家をはじめ本寄付金事業の目的にご賛同いただける方々を対象とし、2014 年 9 月 16 日より 1 年間の募金期間で開始、目標額を 1 億円とし、目標達成に向けて個人・法人へのアプローチ等より有効な手段を講じた。

●成果及び達成度

寄付金事業を立ち上げ、趣意書を作成、募金期間を 2014 年 9 月 16 日より 1 年間とし募金活動を展開した。目標達成に向けより有効な手段を講じた結果、目標額 1 億円に対し、約半年で約 90%を達成した。また、中間芳名録の作成と併せて、創立 100 周年を記念し特別座談会を設定、新校舎建設の趣旨の周知及び寄付金事業への協力依頼の為の冊子を作成した。

●今後の展望

2015 年度 9 月末の募金期間終了まで引き続き募金活動を展開し、目標額 1 億円達成に向け、より有効な手段を講じる。また、寄付金の顕彰として、銘板への氏名掲載等を行う。尚、募金期間終了後に芳名録を作成し、学内広報誌「Muse」及びホームページに掲載する。

【4】財政

本学では中長期的な財政計画として、人員計画や施設計画及び経費削減策等の理事会方針を反映した「長期財政試算」を毎年作成し、この財政試算に基づき、事業計画や予算策定時の指標とし、収支バランスの安定に努めている。主な方策として、①安定した資産運用による収入の確保、②経常費補助金、科学研究費補助金、演奏会に対する助成金、寄付金事業の推進等の外部資金獲得、③法人事業計画管理会議で事務部門長へのヒアリングを実施し、更に経費削減策を講じる等、徹底した予算管理を行った。

III 財務の概要

別紙をご参照ください。

▼2014年度

法人の動き

月	日	内 容	会 場
<A. 教育・研究事業>			
4月	1日	大学・短大入学式	ザ・カレッジ・オペラハウス
4月	1日	大学3年次編入ガイダンス	F110教室
4月	2日	新入生ガイダンス	B402教室 他
4月	2日	大学3年次編入・短大専攻科入試ガイダンス	A301
4月	3日	B群科目WEB受講登録	
4月	4日	学生定期健康診断 [他 4/5]	
4月	4日	小川浩美氏 声楽特別講義	P107
4月	5日	音楽幼稚園 第47回入園式	音楽幼稚園
4月	5日	新入生歓迎祭	K号館
4月	7日	前期授業開始日	
4月	10日	音楽幼稚園第1学期始業式	音楽幼稚園
4月	17日	フローラン・エオー 客員教授 クラリネット特別講義	O202
4月	17日	松田康子氏 室内楽特別講義	ミレニアムホール
4月	21日	教授会①	会議室
4月	26日	ヴォルフガング・ヴィプフラー氏 ホルン特別講義	O201
5月	20日	有森博特任教授 ピアノ特別講義	ミレニアムホール
5月	21日	2013年度大阪音楽大学音楽学部最優秀賞受賞者演奏会 第11回 ザ・ローレル・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
5月	26日	教授会②	会議室
6月	3日	ギリアード・ミシヨリ氏 ピアノ特別講義	ミレニアムホール
6月	12日	2014年度大阪音楽奨学制度給付奨学金の給付決定通知書授与式	会議室
6月	17日	重松みか客員教授 声楽特別講義	C401
6月	21日	豊中市伝統芸能館・大阪音楽大学連携講座 「世界の楽器と音楽15 もっと知りたい世界の楽器」	音楽博物館
6月	23日	教授会③	会議室
6月	25日	大坂昌彦氏 ジャズ特別講義	K207
7月	3日	幸田浩子氏 声楽特別講義	C401
7月	5日	バジル・クリツァー氏 トロンボーン特別講義	O101
7月	8日	礪山雅客員教授 音楽学特別講義	F215
7月	11日	西本智実客員教授 オーケストラ特別講義	ザ・カレッジ・オペラハウス
7月	14日	パトリック・ジグマノフスキー氏 ピアノ特別講義	F434
7月	18日	音楽幼稚園第1学期終業式	音楽幼稚園第1
7月	19日	青柳いづみこ教授 ピアノ特別講義	A414
7月	21日	教授会④	会議室
7月	26日	ヨズア・バルチュ氏 声楽特別講義	P107
7月	26日	音楽幼稚園 夏まつり	音楽幼稚園
9月	1日	音楽幼稚園第2学期始業式	音楽幼稚園
9月	12日	推薦入試判定教授会(大学3年次編入・短大専攻科)	
9月	15日	後期授業開始	
9月	18日	伊藤隆之氏 ピアノ特別講義	ミレニアムホール
9月	18日	安永徹氏 弦楽器特別講義	O201
9月	19日	安永徹氏 弦楽器特別講義	O201
9月	22日	教授会⑤	会議室
9月	25日	2014年度前期卒業証書授与式	会議室C、D
9月	30日	野村誠氏 音楽学特別講義	音楽博物館
10月	1日	音楽幼稚園 2015年度入園願書受付	音楽幼稚園
10月	3日	グレッグ・エイトキン氏 サラ・ウィルソン氏 ピーター・ラフ氏 オーケストラ特別講義	O101
10月	3日	Queensland Conservatory副学長・吹奏楽団長親善訪問・来校・吹奏楽特別講義	O101教室
10月	12日	音楽幼稚園 第48回運動会	音楽幼稚園
10月	20日	釜山国楽チェンバーオーケストラ 邦楽特別講義	ミレニアムホール
10月	23日	工藤重典客員教授 フルート特別講義	O202
10月	28日	クロード・ドゥラング客員教授 サクソフォーン特別講義	O101

▼2014年度

法人の動き

月 日	内 容	会 場
10月 29日	音楽博物館第77回 ミュージアム・コンサート サクソフーン創案者 アドルフ・サククス生誕200年 記念コンサート ～国立パリ高等音楽院教授 クロード・ドゥラングル氏を迎えて～	ミレニアムホール
10月 29日	クリスチャン・レオッタ氏 ピアノ特別講義	ザ・カレッジ・オペラハウス
10月 30日	教授会⑥	会議室
11月 6日	竹本節子客員教授 声楽特別講義	C401
11月 10日	松原友教員 声楽特別講義	F215
11月 11日	ファブリス・モレッティ氏 サクソフーン特別講義	O101
11月 11日	松田康子氏 ピアノ特別講義	F112他
11月 12日	松田康子氏 ピアノ特別講義	F112他
11月 13日	松田康子氏 ピアノ特別講義	F111
11月 13日	とよなか音楽月間参加公演 第26回ザ・コンチェルト・コンサート 選抜学生による協奏曲演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
11月 14日	松田康子氏 ピアノ特別講義	F112他
11月 17日	とよなか音楽月間参加公演 大阪音楽大学 第25回 ザ・カレッジ・コンサート ～選抜学生によるジョイント・リサイタル～	ミレニアムホール
11月 24日	教授会⑦	会議室
11月 25日	推薦入試判定教授会(大学・短大)	
11月 29日	音楽幼稚園 作品展「キッズミュージアム」	音楽幼稚園
12月 5日	創立100周年記念プロジェクト 大阪音楽大学 第57回 定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
12月 12日	ジョージ・ヴァチナーゼ デポール大学准教授 ピアノ特別講義・マスタークラスレッスン	F434
12月 13日	音楽幼稚園 親子で聴く音楽会	オペラハウス
12月 15日	George Vatchnadze准教授(DePaul University School of Music)ピアノ特別演奏会	ミレニアムホール
12月 15日	教授会⑧	会議室
12月 18日	戸田 弥生氏 ヴァイオリン特別講義	O201
12月 22日	スティーヴン・ミード氏 ユーフォニアム特別講義	O202
12月 22日	授業終了	
12月 24日	音楽幼稚園第2学期終業式	音楽幼稚園
1月 8日	授業再開	
1月 13日	音楽幼稚園第3学期始業式	音楽幼稚園
1月 14日	マルティン・ブリッゲンストーファー氏 作曲 特別講義	K120
1月 15日	菅沼準二氏 ヴィオラ特別講義	O201
1月 22日	後期実技試験 [他 1/23～24、27～2/7]	
1月 26日	後期授業最終日	
1月 26日	教授会⑨	会議室
2月 3日	ヨズア・バルチュ氏 声楽特別講義	P107
2月 10日	音楽幼稚園 子どものための小さな音楽会	音楽幼稚園
2月 13日	一般入試【A日程】判定教授会(大学・短大)	会議室
2月 21日	創立100周年記念プロジェクト 第26回 大阪音楽大学学生オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」(第一日)	ザ・カレッジ・オペラハウス
2月 22日	創立100周年記念プロジェクト 第26回 大阪音楽大学学生オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」(第二日)	ザ・カレッジ・オペラハウス
2月 23日	教授会⑩	会議室
2月 28日	音楽幼稚園 発表会「たのしみまショー」	オペラハウス
3月 4日	入試判定教授会(大学専攻科・大学3年次編入・短大専攻科)／修了・卒業・進級判定教授会(大学・短大)	会議室
3月 7日	音楽幼稚園 音楽教室「クレフ」発表会	ミレニアムホール
3月 8日	創立100周年記念プロジェクト 大阪音楽大学 第46回 吹奏楽演奏会	ザ・シンフォニーホール
3月 14日	大阪音楽大学短期大学部 2014年度卒業演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月 16日	教授会⑪	会議室
3月 16日	大阪音楽大学 2014年度卒業演奏会(第一夜)	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月 17日	大阪音楽大学 2014年度卒業演奏会(第二夜)	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月 18日	音楽幼稚園 第3学期終業式	音楽幼稚園
3月 19日	音楽幼稚園 第48回卒園式	音楽幼稚園
3月 25日	大学・短大卒業式	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月 25日	一般入試【B日程】判定教授会(大学・短大)	会議室

＜B. 社会連携活動事業＞

▼2014年度

法人の動き

月 日	内 容	会 場
4月 3日	市立豊中病院ランチタイムコンサート①	市立豊中病院
4月 15日	名刺講座[他 4/18、5/26、6/17、7/15、9/26、10/20、11/11、12/11、1/21]	
4月 19日	ポピュラーコース・オープンカレッジ[他 5/10・5/17・6/7・6/14・6/21・6/28・9/13・9/27・10/4・10/25・11/1・11/15・11/29・1/24・1/31]	K号館
4月 25日	第27回インターンシップ報告会・第28回インターンシップ説明会	A301教室
4月 27日	体験レッスン[他 5/24・5/25・6/8・6/15・6/22・6/29・7/6・7/13・7/20・9/14・10/4・10/5・10/12・11/2・1/18・3/29]	三木楽器開成館他
4月 29日	キャンパスツアーの実施[他 5/17・6/7・7/21・8/22・8/23・9/15・10/11・10/18・12/6・12/13・1/24・2/21・2/28]	
5月 5日	中高生のための声楽セミナー&発表会in福岡[他 5/6]	ふくふくホール
5月 7日	市民ロビーゆうゆうコンサート①	豊中市役所第二庁舎市民ロビー
5月 10日	中高生のための作曲入門講座[他 5/24・6/7・6/21・7/5・7/20・8/2・8/23・9/6・9/27・10/11・10/25・11/8・11/29・12/20・1/10・1/24・2/7・2/21・3/7・3/29]	大阪音楽大学
5月 11日	全国高等学校「軽音フェスティバル」2次予選	ミレニアムホール
5月 13日	英会話講座[他5/20、5/27、6/3、6/10、6/17、6/24、7/1、7/8、7/15]	B207教室
5月 13日	オペラ物知り講座①	ミレニアムホール
5月 15日	一般社会人のためのオペラ講座①	F405.434.510.511他
5月 18日	Prof.Colleen Richardson氏[カナダ]来校(吹奏楽授業見学)	O101教室
5月 24日	阪急催事「レインスタイルコレクション」における管楽器による「雨の日の音楽会」	阪急うめだ本店祝祭広場
5月 25日	豊中夢の第九コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
5月 29日	一般社会人のためのオペラ講座②	F405.434.510.511他
6月 1日	吹奏楽フェスティバル2014	大阪音楽大学
6月 3日	JASRACによる著作権セミナー[前期]	F215教室
6月 4日	Anglo-Chinese Junior College[シンガポール]来校(吹奏楽クリニック)	O101教室
6月 4日	Anglo-Chinese Junior College[シンガポール]来校(合唱クリニック)	ミレニアムホール
6月 5日	Anglo-Chinese Junior College[シンガポール]:吹奏楽来校(音楽博物館見学)	音楽博物館
6月 6日	高等学校教員対象 入試説明会	ミレニアムホール
6月 6日	大学3年生対象 卒業後の進路のためのガイダンス	B402教室
6月 7日	秘書検定2級対策講座[他 6/14、6/21]	B205教室
6月 7日	Paya Lober Methodist Girl's School[シンガポール]来校(ギタークリニック)	K205教室
6月 7日	教員免許状更新講習「指揮法の基本と実践」[他 6/14]	O201教室
6月 10日	第28回インターンシップ選考会	A302～A305教室
6月 10日	オペラ物知り講座(番外編)	ミレニアムホール
6月 11日	市立豊中病院ランチタイムコンサート②	市立豊中病院
6月 12日	一般社会人のためのオペラ講座③	F405.434.510.511他
6月 13日	大学2年生対象 キャリアガイダンス	B402教室
6月 14日	ミレニアムホール特別講座①	ミレニアムホール
6月 19日	一般社会人のためのオペラ講座④	F405.434.510.511他
6月 21日	教員免許状更新講習「鑑賞とリンクした創作指導法」	A301教室
6月 22日	オープンキャンパス[他 7/20・11/24・3/29]	大阪音楽大学
6月 26日	一般社会人のためのオペラ講座⑤	ザ・カレッジ・オペラハウス
7月 3日	提携校交換留学報告会(王立ウエールズ音楽演劇大学・フォルクヴァング芸術大学)	B101教室
7月 4日	大学連携PBLモデルプログラム学内説明会(産業界ニーズ事業・テーマA)[他 7/7、7/8、7/9、7/10]	B104教室他
7月 15日	オペラ物知り講座②	ミレニアムホール
7月 19日	台湾での大学進学フェア ブース出展[他 7/20]	高雄・台北
7月 19日	指導者研修「合唱(応用編)」(合唱と管弦楽とのワークショップ形式で学ぶ)[他 7/20、21]	F434教室、ミレニアムホール
7月 22日	教員免許状更新講習「合唱指導法」[他 7/23]	ミレニアムホール
7月 25日	高校生のためのオペラセミナー[他 7/26]	F405教室 他
7月 25日	指導者研修「ケチャで実践、おもしろ創作指導法」[他 7/26]	C401教室
7月 27日	高校生のためのオペラセミナー発表会	ザ・カレッジ・オペラハウス
7月 27日	声楽教員によるミニ・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
7月 31日	夏期受験講習会[他 8/1・2]	
7月 31日	指導者研修「ピアノ 基礎編」[他 8/1]	ミレニアムホール、F215教室 他
7月 31日	教員免許状更新講習「日本伝統音楽」[他 8/1]	D201～D204、D401教室
8月 1日	大阪ステーションシティ「ファンファンフェスタ2014」における管楽器による「夏のコンサート」	JR大阪駅時空の広場
8月 1日	指導者研修「ピアノ 応用編」[他 8/2]	ミレニアムホール、F215教室 他
8月 3日	第72回音楽基礎科目到達度テスト	

▼2014年度

法人の動き

月	日	内 容	会 場
8月	3日	指導者研修「合唱 基礎編」(合唱を伝える喜び)[他 8/4]	O101教室、ミレニアムホール
8月	4日	教員免許状更新講習「雅楽基礎講座」[他 8/5]	F214、F215教室
8月	7日	指導者研修「幼児音楽」(子どもに音楽の喜びを)[他 8/8、8/9]	C401、O101教室
8月	7日	教員免許状更新講習「教育の最新事情」[他 8/8]	B101、B102、B205、B206教室
8月	9日	阪急催事「ディズニープリンセスコレクション」における「スペシャルライブミュージカル」	阪急うめだ本店祝祭広場
8月	18日	教員免許状更新講習「リコーダー指導法」[他 8/19～20]	D201～D204、D401教室
8月	19日	大学連携PBLモデルプログラム(産業界ニーズ事業・テーマA)[他 8/20、8/21]	長居ユースホテル
8月	21日	教員免許状更新講習「打楽器指導法」[他 8/22]	K201教室
8月	25日	市立豊中病院ランチタイムコンサート③	市立豊中病院
8月	30日	軽音連大阪 High School Live [他 8/31]	ミレニアムホール
8月	31日	同窓会《幸楽会》特別推薦実技認定審査・教員特別推薦実技認定審査	
9月	8日	産業界ニーズ事業 合同フォーラム～みんなでつろう明日の人材～	大阪府立大学 学術交流会館
9月	10日	市民ロビーゆうゆうコンサート②	豊中市役所第二庁舎市民ロビー
9月	11日	大学3年次編入推薦・短大専攻科特別入学試験	
9月	20日	ミレニアムホール特別講座②	ミレニアムホール
9月	21日	大学・短大進学実技適正テスト	
9月	21日	JRA GⅡ「ローズステークス」発走ファンファーレ演奏およびミニコンサート	阪神競馬場
9月	26日	短大1年生対象 卒業後の進路のためのガイダンス	A301教室
9月	27日	大学院入試前期日程[他 9/28・10/5]	
9月	27日	豊中市高校生軽音楽部クリニック	K号館
9月	28日	豊中こども音楽フェスティバル	ザ・カレッジ・オペラハウス
10月	1日	大阪ステーションシティ「フラワーアートミュージアム2014」におけるクラシックギターよる「ミニコンサート」	JR大阪駅時空の広場
10月	1日	市立豊中病院ランチタイムコンサート④	市立豊中病院
10月	4日	指導者研修「打楽器」(打楽器の魅力)[他 10/25、11/1、11/15、11/22、11/29、12/13]	K201教室
10月	5日	天満音楽祭(ダンスパフォーマンス・コース出演)	JR大阪駅
10月	7日	大阪ステーションシティ「フラワーアートミュージアム2014」における管楽器による「ミニコンサート」	JR大阪駅時空の広場
10月	10日	けやきの森市民大学秋季講座「音楽の宝石箱」①	高槻市立生涯学習センター
10月	11日	創立100周年記念プロジェクト ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団第51回定期演奏会 第51回オペラ公演 20世紀オペラ・シリーズ「鬼娘恋首引」「カーリユー・リヴァー」	ザ・カレッジ・オペラハウス
10月	11日	キャリア支援に関する保護者説明会(全学生保護者対象)・個別相談	ミレニアムホール、会議室 他
10月	13日	創立100周年記念プロジェクト ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団第51回定期演奏会 第51回オペラ公演 20世紀オペラ・シリーズ「鬼娘恋首引」「カーリユー・リヴァー」	ザ・カレッジ・オペラハウス
10月	17日	けやきの森市民大学秋季講座「音楽の宝石箱」②	高槻市立生涯学習センター
10月	18日	ジュネーヴ公式楽団 ランドヴェール音楽隊 交際交流演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
10月	24日	第28回インターンシップ報告会・第29回インターンシップ説明会	A301教室
10月	28日	ヤマハ音楽指導グレード5級取得準備講座 [他 11/4、11/11、11/18、11/25、12/2、12/9、12/16、12/23]	B205教室
11月	4日	オペラ物知り講座③	ミレニアムホール
11月	7日	けやきの森市民大学秋季講座「音楽の宝石箱」③	高槻市立生涯学習センター
11月	12日	産業界ニーズ事業・学生リーダー会 ランチタイムミーティング	学生サロン「ばうぜ」
11月	14日	けやきの森市民大学秋季講座「音楽の宝石箱」④	高槻市立生涯学習センター
11月	20日	大学・短大推薦入学試験[他 11/21・22・23]	
11月	21日	けやきの森市民大学秋季講座「音楽の宝石箱」⑤	高槻市立生涯学習センター
11月	25日	JASRACによる著作権セミナー[後期]	B401教室
11月	28日	産業界ニーズ事業(テーマB)・産学交流会	堺市産業振興センター
12月	2日	第29回インターンシップ選考会	A302～A305教室
12月	2日	音楽心の旅①	豊中市立中央公民館
12月	6日	ミレニアムホール特別講座③	ミレニアムホール
12月	9日	音楽心の旅②	豊中市立中央公民館
12月	14日	JRA GⅠ「阪神ジュベナイルフィリーズ」発走ファンファーレ演奏	阪神競馬場
12月	14日	スノーマンフェスティバル(ミュージカル・コース出演)	
12月	17日	市立豊中病院ランチタイムコンサート⑤	市立豊中病院
12月	23日	冬期受験講習会[他 12/24・25]	
12月	26日	第73回音楽基礎科目到達度テスト	

▼2014年度

法人の動き

月 日	内 容	会 場
12月27日	大阪ステーションシティ「トワイライトファンタジー2014」における合唱による「トワイライトコンサート」	JR大阪駅時空の広場
1月9日	提携校交換留学報告会(王立ウェールズ音楽演劇大学)	B101教室
1月9日	教員採用試験筆記対策・一般教養等Web講座ガイダンス	F110教室
1月11日	高知軽音楽連盟合同クリニック	
1月11日	市制60周年記念事業「大阪音楽大学吹奏楽団コンサート」	小野市うるおい交流館エクラホール
1月25日	第6回大阪大学・大阪音楽大学ジョイント企画 アンドロイド演劇「さよなら」	ミレニアムホール
1月27日	オペラ物知り講座④	ミレニアムホール
2月1日	堺市・美原町合併10周年記念コンサート	堺市立美原文化会館
2月8日	大学・短大一般入学試験【A日程】[他 2/9～11]	
2月13日	市立豊中病院ランチタイムコンサート⑥	市立豊中病院
2月16日	面接必勝講座[他 2/17、2/19、2/20]	F215教室
2月18日	市民ロビーゆうゆうコンサート③	豊中市役所第二庁舎市民ロビー
2月20日	学内就職相談会	学生サロン「ぼうぜ」
2月21日	広島サテライト講習会(吹奏楽)	鈴峯女子高等学校
2月23日	産業界ニーズ事業(テーマB)・産学交流会「本音で語る企業と学生交流会」	大阪府立大学I-siteなんば
2月23日	ピアノ弾き歌い対策講座[他 2/25、2/27]	F110教室
2月25日	大学3年次編入・短大専攻科一般入試[他 2/26・27]	
2月28日	ミレニアムホール特別講座④	ミレニアムホール
3月2日	大学音楽専攻科入試	
3月2日	産業界ニーズ事業(テーマB)インターンシップ研修	大阪府立大学I-siteなんば
3月3日	教員採用試験対策講座(専門実技:リコーダー) [他 3/5]	F110教室
3月11日	教員採用試験対策合宿 [他 3/12]	西宮市立甲山自然の家
3月13日	大学院入試後期日程[他 3/14]	
3月15日	岡山サテライト講習会(吹奏楽)	岡山学芸館高等学校
3月20日	大学・短大一般入学試験【B日程】[他 3/21]	
3月21日	第74回音楽基礎科目到達度テスト	
3月31日	オーケストラの日2015	すてっぷホール
<C. 法人組織運営事業>		
5月26日	第1回理事会 決議事項:2013年度事業報告、2013年度決算報告、短期事業計画案(2014～2017年度)、評議員人事 報告事項:2014年度入学試験結果、法人運営規模等の推移(2005年～14年度)	会議室
5月27日	第1回評議員会 決議事項:評議員会議事録署名人選出、評議員互選理事選出 諮問事項:役員人事、2013年度事業報告、2013年度決算報告、短期事業計画案(2014～2017年度)、 報告事項:常任理事の選任、評議員の選任、2014年度入学試験結果、 法人運営規模等の推移(2005～14年度)	会議室
6月27日	第2回理事会 決議事項:役員人事、評議員人事 協議事項:新校舎建設計画と財務状況、創立100周年寄付金事業	会議室CD
7月5日	2014年度大阪音楽大学後援会役員会・定期総会	会議室
11月26日	第2回評議員会 諮問事項:2014年度第1回補正予算案、新校舎の建設計画及び資金調達 報告事項:新専攻立上	会議室
11月28日	第3回理事会 決議事項:評議員人事、2014年度第1回補正予算案、新校舎の建設計画及び資金調達案 報告事項:新専攻立上	会議室
1月10日	大阪音楽大学後援会懇話会・役員会	会議室
1月15日	株式会社テスタ(第10期)株主総会	
1月23日	第4回理事会(表決書決議) 決議事項:2016年度以降の学生生徒等納付金	会議室
3月17日	第3回評議員会 諮問事項:2014年度第2回補正予算案、2015年度事業計画案、2015年度予算案、評議員会への監事同席	会議室

▼2014年度

法人の動き

月 日	内 容	会 場
3 月 17 日	報告事項:評議員の選任、2014年度入学試験結果、株式会社テスト活動報告 第5回理事会 決議事項:2014年度第2回補正予算案、2015年度事業計画案、2015年度予算案、 2015年度大阪音楽大学学則変更及び大阪音楽大学音楽専攻科規則変更、 2015年度大阪音楽大学短期大学部学則変更及び大阪音楽大学短期大学部専攻科規則変更、 2015年度大阪音楽大学大学院規則変更、就業規則の改定、各種規程の改定	会議室
3 月 20 日	報告事項:2015年度入学試験結果、株式会社テスト活動報告 大阪音楽大学後援会懇親会	